

2 專 門 基 礎 科 目

(三学科共通)

専門基礎科目

科目名	頁
保健医療論	45
生命医療倫理学	46
心理学	47
臨床心理学	48
カウンセリング論	49
人間発達学	50
生体形態学	51
生体機能学Ⅰ	53
生体機能学Ⅱ	55
栄養代謝学	56
臨床栄養学	57
免疫と微生物	58
生体形態学実習	60
生体機能学演習	61
薬理学	62
臨床薬理学	63
薬理・臨床薬理学	64
病理学	65
成人老年疾病論Ⅰ	69
成人老年疾病論Ⅱ	71
成人老年疾病論Ⅲ	73
リハビリテーション概論	75
救急医療学	77
生殖遺伝学	78
基礎保健学	79
保健統計学	80
国際保健論	81
チーム医療論	82
高次脳機能障がい論	83
精神障がい論	84
小児疾病論	85
運動器障がい論	87
発達障がい論	88
神経障がい論	89
社会福祉論	90

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健医療論	三学科共通 (専門基礎科目)	教 授・佐藤 寿晃 学 長・上月 正博 教 授・遠藤 恵子 准教授・丹野 克子	看 護－必修 理・作－選択	1	前期	1	非該当	否
授業概要	保健医療の概念や歴史の変遷、社会福祉の理念・制度、行政の仕組み、保健医療の人的要素や倫理、具体的な医療・介護施設などの体制とそこでの専門職の役割と、多職種連携の概念を教授する							
一般目標	保健医療の概念や、現状と課題を理解し、自分が専門職として目指す姿を考察することができる。							
到達目標	・健康の概念を説明することができる ・医療の歴史、および現在の医療制度と課題を説明することができる ・施設内外の医療や公衆衛生の概念を理解することができる ・医の倫理について説明することができる ・保健医療の専門職の役割と連携について述べるすることができる ・保健医療における自身の専門職の役割について考えることができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・毎回講義終了後に、講義テーマに関する知識の理解度や授業への積極性を確認する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 13 (木) 2	健康とは、社会と健康	健康の概念		授業で示す課題について自己学習を行う 主体的に図書や文献を活用し、学びを深める姿勢を身につける ※外部講師の都合で順序が入れ替わることもある。		上月	
2	5. 4. 20 (木) 4	医療の歴史・研究と実践	医療の歴史と今後の課題、EBM				上月	
3	5. 4. 27 (木) 4	日本の医療制度	医療システム、医療政策				上月	
4	5. 5. 11 (木) 4	公衆衛生と保健	疾病予防、健康増進				石川	
5	5. 5. 18 (木) 4	医療における倫理	生命倫理、患者の権利				佐藤	
6	5. 5. 25 (木) 4	地域包括ケアシステム	在宅ケア、多職種連携				丹野	
7	5. 6. 1 (木) 4	保健医療専門職の役割	看護職・理学療法士・作業療法士				佐藤 遠藤 丹野	
8	5. 6. 8 (木) 4	海外の保健医療福祉	スウェーデンの保健医療福祉の実際				外部 講師	
教 科 書 参 考 図 書		教科書：なし 参考書：授業内で紹介する						
履 修 上 の 注 意		広い視野をもって現在の保健医療について理解することを心がけること						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		専門職として関わる保健医療を理解し、将来協働することとなる多職種の理解を深めてほしい						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生命医療倫理学		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 清水 哲郎	必須	1	前期	1	非該当	可
授業概要	生命を研究しその成果を社会のために使おうとする生命科学技術に関して、医学・医療を中心にそうした科学技術に関わる際の倫理を概観する。生命の扱い方によっては大きな害をもたらす恐れがある。ことに人間の生命は、その尊厳ある人生を支えるものとして適切に対応する必要がある。適切な対応を考えるのが倫理である。								
一般目標	生命倫理および医療倫理の基本を理解し、保健医療に携わる際に生じる生命医療倫理に関わる問題を考えられるようになる。								
到達目標	生命科学技術の発達に伴って生じた「できるようになったが、やってよいだろうか」という問いとそれへの対応の基礎を理解し、関係する問題を考えることができる。尊厳ある人生を支える専門職に必要な倫理の基礎を理解し、医療・ケア等の活動の倫理面に配慮できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：生命医療倫理学について理解したかどうかに加え、理解したことを使って考えられるようになったかどうかを評価する。 方法：授業毎に出す練習問題や課題への取り組み（30％）と期末試験(70％)により評価する。 基準：上記 2 項目を合わせて 100 点満点として評価する								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 21 (金) 3	倫理一般と生命医療倫理(1)	社会のメンバー全てに該当する倫理の基礎・講義とワーク（以下同じ）			予習・復習：教科書の第1、7章		清水	
2	5. 4. 21 (金) 4	倫理一般と生命医療倫理(2)	倫理一般の理解をベースにして、生命倫理・医療倫理の基礎を理解する			同上 第8、9章		清水	
3	5. 4. 28 (金) 3	生命科学技術の発達と倫理(1)	生命&ヒトを対象とする研究：被験者保護、自然への影響			別に配布する講義ノートを予習・復習		清水	
4	5. 4. 28 (金) 4	生命科学技術の発達と倫理(2)	社会に寄与する研究成果：関係者の益と害：人工授精、代理母、遺伝子操作、脳死と臓器移植 など			同上		清水	
5	5. 5. 12 (金) 3	医療・ケアの倫理(1)	医療・ケア活動の倫理原則（人間尊重・与益・社会的適切さ）；ケアの倫理			教科書 第9、10章		清水	
6	5. 5. 12 (金) 4	医療・ケアの倫理(2)	倫理原則と倫理的姿勢、倫理的に適切な選択・行動の考え方、倫理的ジレンマ			同上 第9章④ 他		清水	
7	5. 5. 19 (金) 3	臨床倫理(1)	人の Well-Being を目指すことを巡って：人生と生命、QOL、相応性原則			同上 第11章		清水	
8	5. 5. 19 (金) 4	臨床倫理(2)	意思決定プロセス：パターナリズム、Informed consent, 説明-同意モデル, 情報共有-合意モデル, 意思決定支援			同上 第12章		清水	
教科書 参考図書	教科書：清水哲郎『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』医学書院、2022年 参考書：清水・会田・田代編著『臨床倫理の考え方と実践』東京大学出版会、2022年								
履修上の注意	先修条件指定科目なし 医療・ケアに従事する者にとって、その活動の倫理面を考える力を備えることは必須です。実際に臨床で必要になることと思って学修に取り組んでください。								
学生への メッセージ	倫理に関わる学修は、実際に医療・ケアに関係する専門職として活動する際に、倫理的姿勢で置かれた状況を適切に把握し、適切な選択・行動ができるようになるためのものです。ですから、知識を覚えることよりも、実際に倫理的姿勢で考えられるようになることを目指してください。								
e-mail・研究室 (連絡先)	清水哲郎：shimizu@iwate-uhms.ac.jp 岩手保健医療大学 臨床倫理研究センター								
連絡調整 担当教員	遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
心 理 学		看護学科 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	選択	1	前期	2	非該当	可
授業概要		心理学は学習心理学や教育心理学、認知心理学等のさまざまな分野に発展的に分岐しているが、この科目ではそれらの基本となる基礎心理学（一般心理学）を概論する。しかし、単に理論を講じるだけではなく、人間の心理や行動に関する具体的ケースを提示し、心を科学する観点からグループ・ディスカッションを行い、実質的に理解を深める。							
一般目標		1 感覚、知覚、認知、記憶、情動、学習、行動などの心理的諸機能について学ぶ。 2 心理的諸機能の知識により自己と他者の共通性と相違を学ぶ。 3 心理的諸機能と他者、社会とのかかわりを学ぶ。							
到達目標		①心理学の公共性、反復性、体系性について述べることができる。②三項随伴性、弁別刺激、強化刺激、強化、消去、般化について述べることができる。③オペラント行動とレスポナント行動について述べることができる。④カウンセリングの基本姿勢とスキル、感情転移について述べることができる。⑤モダリティの決定因、刺激閾、刺激頂、弁別閾、順応について述べることができる。⑥図と地、群化の要因、知覚の恒常性、形の処理について述べることができる。⑦エピソード・意味・手続の記憶、記銘、保持、検索について述べることができる。⑧感情、情動発生の主要なモデルについて述べることができる。⑨基本的動機、派生的動機、動機と葛藤と行動について述べることができる。⑩失語症、概念学習、思考の発達、推理の方法について述べることができる。⑪知能テスト、パーソナリティ・テストについて述べることができる。⑫理不尽な要求、偏見、リーダーシップPM理論について述べることができる。⑬発達の定義・段階、基本的信頼感、自我同一性について述べることができる。⑭心理アセスメントのポイント、心理療法の種類について述べることができる。⑮心理学的諸機能と自分の個々の活動との関連について述べることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5.4.10（月）4	心理学の意義と方法	公共性、反復性、体系性等				各回の授業項目にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。	佐竹	
2	5.4.17（月）4	学習	三項随伴性、弁別、強化、般化等						
3	5.4.24（月）4	行動	オペラントとレスポナント等						
4	5.5.1（月）4	カウンセリング	カウンセリングスキル、感情転移						
5	5.5.8（月）4	感覚	モダリティの決定因、刺激閾、弁別閾						
6	5.5.15（月）4	知覚・認知	図と地、群化の要因等						
7	5.5.22（月）4	記憶	記銘、保持、検索等						
8	5.5.29（月）4	情動	感情、情動発生の主要なモデル						
9	5.6.5（月）4	動機づけ	動機と葛藤と行動等						
10	5.6.12（月）4	言語・概念・思考	失語症、概念学習、思考の発達等						
11	5.6.19（月）4	知能・パーソナリティ	知能テスト、パーソナリティ・テスト等						
12	5.6.26（月）4	集団と人間関係	偏見、リーダーシップ理論等						
13	5.7.3（月）4	発達	発達の定義・段階、発達の障がい						
14	5.7.10（月）4	心理アセスメント	心理アセスメント、心理療法等						
15	5.7.24（月）4	総合討論	これまでの学習の検討						
教 科 書 参 考 図 書		教科書：内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）リハベーシック 心理学・臨床心理学（医歯薬出版） 参考図書：Smith, E. E.（著）内田一成（監訳）ヒルガードの心理学（ブレーン出版）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。さまざまな基本的問題を討論し合える、肯定的で積極的な雰囲気の講義にしたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心理学を学問とだけとらえるのではなく、自分や他者の生活を豊かにするための有用な道具でもあると講義担当者は捉えている。その視点で、みなさんの日常生活に密着した問題を取り上げて話し合えるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床心理学		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要		臨床心理学は人の心理的状態・障がいのアセスメントとその改善・治療を目的とする実践的心理学であるが、この科目ではそれらの基本となる心理検査によるアセスメントと各種の心理臨床技法を紹介する。また、それらに関連づけながら臨床心理学の対象となる障がいを、事例を含めながら紹介し、さらに、グループ・ディスカッションを通してその内容の理解を一層深める。							
一般目標		1 臨床心理学の基本的知識と基礎的技術を理解する。 2 各種の事例研究、各種心理検査演習を行い、自己理解・他者理解を深める。 3 臨床心理学の基礎的技術としてカウンセリングスキル、自律訓練法、系統的脱感作法、行動分析、認知行動療法を体験的に理解する。							
到達目標		①自身について S T A I、M P I、Y Gを実施し、採点、解釈ができる。②自身についてバウムテストを実施できる。投影法について述べるができる。③クレペリンテスト、知能検査、発達検査の目的と特徴について述べるができる。④開いた質問、繰返し、明確化などのカウンセリングスキルを用いることができる。⑤認知行動療法の仕組みを理解し、自身の課題について試用することができる。⑥自律訓練法と系統的脱感作法を理解し、自身について実施することができる。⑦不安と不安障がい、身体表現性障がいと疾病利得について述べるができる。⑧解離性同一性障がい、境界性パーソナリティ障がいについて述べるができる。⑨摂食障がいと家族関係、不登校のアセスメントについて述べるができる。⑩統合失調症者の社会的技能訓練や社会生活支援について述べるができる。⑪依存症の回復の過程、気分障がいの認知行動療法について述べるができる。⑫自閉症、アスペルガー障がい、ADHD、学習障がいについて述べるができる。⑬発達障がい児者への臨床心理学的・行動分析的介入法について述べるができる。⑭老化による障がいに対する臨床心理学的アプローチについて述べるができる。⑮医療人における臨床心理学的教養の目的と応用方法について述べるができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		討論（15点）、理解度チェック（試験等）（65点）、レポート等（20点）を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	5. 9. 26 (火) 2 5. 10. 3 (火) 2 5. 10. 10 (火) 2 5. 10. 17 (火) 2 5. 10. 24 (火) 2 5. 10. 31 (火) 2 5. 11. 7 (火) 2 5. 11. 14 (火) 2 5. 11. 28 (火) 2 5. 12. 5 (火) 2 5. 12. 12 (火) 2 5. 12. 19 (火) 2 5. 12. 26 (火) 2 6. 1. 9 (火) 2 6. 1. 16 (火) 2	臨床心理学的自己理解 1 臨床心理学的自己理解 2 臨床心理学的自己理解 3 臨床心理学技法 1 臨床心理学技法 2 臨床心理学技法 3 臨床心理学事例研究 1 臨床心理学事例研究 2 臨床心理学事例研究 3 臨床心理学事例研究 4 臨床心理学事例研究 5 臨床心理学事例研究 6 臨床心理学事例研究 7 臨床心理学事例研究 8 講義のまとめ	S T A I、M P I、Y G等 P F スタディ、バウムテスト、ロールシャッハテスト等 クレペリンテスト、知能検査、発達検査等 カウンセリングスキル等 精神療法、行動療法、認知行動療法 自律訓練法、系統的脱感作法 不安障がい、身体表現性障がい 解離性障がい、パーソナリティ障がい 摂食障がい、不登校等 統合失調症と社会生活支援 依存症、気分障がい、てんかん等 自閉症、ADHD、学習障がい等 発達障がい児者への臨床心理学的介入 老化による障がい等 臨床心理学的教養の応用			各回の学習内容にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関して演習またはグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。		佐竹	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）リハベーシック 心理学・臨床心理学（医歯薬出版） 参考図書：下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学 改訂新版（ミネルヴァ書房）							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。基礎的な問題を討論し合いながら理解できるようにしていきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		心と身体が不可分の関係にあることは自明である。それゆえ、医療人にとっても臨床心理学について知ることはきわめて重要であるといえる。授業では心理検査の演習や具体的事例を多く用いて、臨床心理学を分かりやすく伝えたい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g. ssatake@yachts. ac. jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts. ac. jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
カウンセリング論		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 志水 貴紀	選択	2	前期	1	非該当	可
授業概要		看護は、単に医療技術の提供のみならず、患者とのコミュニケーションも必須となってくる。そのコミュニケーションは単なる雑談ではなく、治療の促進につながるものでなくてはならない。この授業では、コミュニケーションの1つの方法として、傾聴と共感を基本とする非指示的カウンセリングを中心に、他にいくつかの発展的技法についても伝えていく。							
一般目標		カウンセリングの仕組み、基本的態度、基本的スキル、その他の発展的技法を理解する。							
到達目標		カウンセリングの仕組み、基本的態度、基本的スキル、その他の発展的技法について述べることができる。また、患者とのコミュニケーションを取る際に、非言語的技法にも注意しながら、基本的なカウンセリング技法を使うことができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		授業参加度：毎回、ミニツツペーパーを使用。ミニツツペーパーの内容、および、授業中の発言などの授業参加度に応じて、評価します。(35点) レポート：講義最終回にレポート課題を提示します。(65点)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.12(水)4	カウンセリングとは		「カウンセリング」の概念を理解する。また、看護師国家試験の中からカウンセリングに関する問題を解いて、カウンセリングの位置づけを確認する。		自らの日常生活における様々な体験が重要な材料となるので、それらを授業に活かすよう心がける。		志水	
2	5.4.14(金)2	カウンセリングの外的枠組みと自己理解		部屋の設定や座り方、対人的距離、声の大きさやトーン、話の間の置き方などを演習を通して学ぶ。また、聞き手である自分の特徴を把握する。					
3	5.4.17(月)2	カウンセリングの言語的技法		受容や共感等の基本的態度と、開いた質問や繰り返しなどの基本的技法について演習を通して理解する。					
4	5.4.21(金)2	さまざまな手法の紹介		認知行動療法、描画、コラージュなどのカウンセリングを使ったさまざまな手法を理解する。					
5	5.4.24(月)2	スクールカウンセリングの実際の事例Ⅰ		担当教員が実際に行った事例を紹介。実際事例を通して、生徒の心の変化を考えていく。					
6	5.4.28(金)2	スクールカウンセリングの実際の事例Ⅱ		担当教員が実際に行った事例を紹介。実際事例を通して、生徒の心の変化を考えていく。					
7	5.5.1(月)2	医療コミュニケーション		医療場面で取り交わされるコミュニケーションの中から、障害受容の場面、対家族を交えた事例をもとに看護におけるカウンセリングの進め方を考える。					
8	5.5.8(月)2	まとめ		授業内容の要点を再確認する。					
教 科 書 参 考 図 書		特に使用しない。担当教員が資料を用意する。第2回目の授業で、本講義で取り扱う内容についての別冊資料を配布するので、そちらを毎回の授業では忘れずに持参すること。							
履 修 上 の 注 意		ロールプレイも入れた演習中心の参加型の授業であるので、積極的な発言を求める。また、実際の事例も取り入れていくので、守秘義務の取り扱いには十分に注意すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		カウンセリングというと、言語面ばかりが注目されるが、非言語の部分にもぜひ注目してほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課							
連 絡 調 整 担 当 教 員		安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
人間発達学		三学科共通 (専門基礎科目)	名誉教授 佐竹 真次	看 護一選 択 理・作一必 修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		人間の生涯発達について概観する中で、各段階に見られやすい発達の特徴を検討していく。しかし、単に理論を講じるだけではなく、人間の発達の問題に関する具体的なケースを提示し、現代までに蓄積されてきた発達学の観点からグループ・ディスカッションを行い、実質的に理解を深める。							
一般目標		1 胎児期、乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期の各段階ごとに身体と運動機能の発達、心理的・社会的発達、人格の発達、および発達の障がいについて理解する。 2 発達の各段階に特徴的な発達臨床にかかわる問題を理解する。							
到達目標		①発達の原理と発達に関わる主要な概念について述べることができる。②人間の胎児と母親との交流、胎児期の危険因子について述べることができる。③反射と随意運動、新生児の知覚、感覚剥奪の影響について述べることができる。④乳児期の正常運動発達と運動発達障がいについて述べることができる。⑤アタッチメントと人見知り、愛着と応答性、同化と調節について述べることができる。⑥父親の役割、性役割、退行現象、第一反抗期と対処について述べることができる。⑦社会性と遊び、情緒的共感、自己中心性、前操作期について述べることができる。⑧親の養育態度と子ども虐待、レジリエンスの育成について述べることができる。⑨発達障がいのアセスメント、知能検査の仕組みと方法について述べることができる。⑩発達障がいの早期発見・介入、社会生活・就労支援について述べることができる。⑪不登校、対人恐怖、摂食障がい、パーソナリティ障がいなどについて述べることができる。⑫自我同一性、青年の性役割、親からの自立、適応機制について述べることができる。⑬親密性、生殖性、うつ病、依存症、タイプA性格などについて述べることができる。⑭老年の記憶機能・知能・認知の特徴、離脱・活動理論について述べることができる。⑮人間の生涯発達、自分自身の人生プランについて考えを述べることができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		討論 (15 点)、理解度チェック (試験等) (65 点)、レポート等 (20 点) を総合して成績評価を行う。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 1	発達の原理	発達の原理に関わる主な理論			各回の授業項目にあたる教科書の箇所を事前に読んで予習しておく。 毎回の授業でその回のトピックに関してグループ・ディスカッションを行ってレポートをまとめるので、主体的・積極的に参加する。		佐竹	
2	5. 10. 2 (月) 1	胎児期	胎児・母親の交流、胎児期危険因子						
3	5. 10. 16 (月) 1	新生児期	反射、新生児の知覚、感覚剥奪等						
4	5. 10. 23 (月) 1	乳児期 1	正常運動発達と運動発達障がい等						
5	5. 10. 30 (月) 1	乳児期 2	アタッチメント、愛着、同化と調節等						
6	5. 11. 6 (月) 1	幼児期	性役割、退行現象、第一反抗期等						
7	5. 11. 13 (月) 1	児童期	社会性、自己中心性、前操作期等						
8	5. 11. 20 (月) 1	発達と養育	子ども虐待、レジリエンス等						
9	5. 12. 4 (月) 1	発達の障がい 1	発達障がいのアセスメント						
10	5. 12. 11 (月) 1	発達の障がい 2	早期発見・介入、社会生活・就労等						
11	5. 12. 18 (月) 1	思春期	不登校、対人恐怖、摂食障がい等						
12	5. 12. 25 (月) 1	青年期	自我同一性、適応機制等						
13	6. 1. 15 (月) 1	成人期	親密性、生殖性、うつ病、依存症等						
14	6. 1. 22 (月) 1	老年期	老年の記憶機能・知能・認知等						
15	6. 1. 29 (月) 1	総合討論	生涯発達と人生プラン						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：川端 啓之 他 著「発達臨床心理学」(ナカニシヤ出版) 参考図書：福田恵美子 編著 「人間発達学」 (中外医学社)							
履 修 上 の 注 意		適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。基礎的な問題を討論し合いながら理解できるようにしていきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		人間の発達を理解することは、心理臨床職のみならず、あらゆる種類の臨床専門職にとって不可欠なことである。本講義ではポイントを絞り、事例を多く用いて内容を確実に理解できるように配慮したい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学	看護学科 (一部三学科共通) (専門基礎科目)	准教授 仁藤 充洋	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	人体の仕組みと成り立ちを正しく理解し、人体の正常な機能と病態について理解を深めるための基礎知識を提供する。人体各部分の形や相互の位置関係を、機能と結び付けて説明する。							
一般目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を理解する。							
到達目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を、図と共に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験等で評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4. 6 (木) 1・2	総論	教科書に沿って板書、プリント、スライド、模型の観察などを行いながら、人体の構造を学習する。				仁藤	
2	5.4.20 (木) 1・2	骨格系						
3	5.4.27 (木) 1・2	筋系						
4	5.5.11 (木) 1・2	脈管系（心臓と動脈系）			(三学科共通)			
5	5.5.18 (木) 1・2	脈管系（静脈とリンパ系）			(三学科共通)			
6	5.5.25 (木) 1・2	消化器系（上部消化管）			(三学科共通)			
7	5.6. 1 (木) 1・2	消化器系（下部消化管と消化腺）			(三学科共通)			
8	5.6. 8 (木) 1・2	呼吸器系			(三学科共通)			
9	5.6.15 (木) 1・2	泌尿生殖器系			(三学科共通)			
10	5.6.22 (木) 1・2	内分泌系			(三学科共通)			
11	5.6.29 (木) 1・2	感覚器系			(三学科共通)			
12	5.7. 6 (木) 1・2	神経系（中枢神経系）						
13	5.7.13 (木) 1・2	神経系（中枢神経系）						
14	5.7.20 (木) 1・2	神経系（末梢神経系）						
15	後日連絡	解剖見学実習						
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：藤田 恒夫 著 「入門人体解剖学」（南江堂） 参考図書：伊藤 隆 著 「解剖学講義」（南山堂）							
履 修 上 の 注 意	授業は教科書に沿って、プリントやスライドを用いて行います。 授業計画は変更される場合があります。 筆記試験と解剖見学実習（場所：山形大学医学部解剖実習棟）の詳細は後日連絡します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	解剖学は医療に携わる人の基礎知識です。単語の丸暗記ではなく、人体の構造を機能面や発生的観点から理解しながら勉強していきましょう。 不明なことや疑問に思ったことは遠慮せずに質問してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学	理学・作業療法学科 (一部三学科共通) (専門基礎科目)	教 授 村 成幸 教 授 菊池 昭夫 准 教 授 仁藤 充洋	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	人体の仕組みと成り立ちを正しく理解し、人体の正常な機能と病態について理解を深めるための基礎知識を提供する。人体各部分の形や相互の位置関係を、機能と結び付けて説明する。 筋骨格系、内臓系、中枢神経系の3分野に分けて教授する。							
一般目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を理解する。							
到達目標	人体全体の基本デザインや主要臓器の構造と位置関係、大まかな機能を、図と共に説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	期末筆記試験で評価する(60点以上合格)。60点未満の場合、各々3分野のうち6割に満たなかった分野について再試験を課す。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5.4.6(木)1・2	中枢神経系	教科書に沿って板書、プリント、スライド、模型の観察などを行いながら、人体の構造を学習する。		(三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通) (三学科共通)		菊池 菊池 菊池 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 仁藤 村 村 村 村	
2	5.4.20(木)1・2	中枢神経系						
3	5.4.27(木)1・2	中枢神経系						
4	5.5.11(木)1・2	脈管系(心臓と動脈系)						
5	5.5.18(木)1・2	脈管系(静脈系とリンパ系)						
6	5.5.25(木)1・2	消化器系(上部消化管)						
7	5.6.1(木)1・2	消化器系(下部消化管と消化腺)						
8	5.6.8(木)1・2	呼吸器系						
9	5.6.15(木)1・2	泌尿生殖器系						
10	5.6.22(木)1・2	内分泌系						
11	5.6.29(木)1・2	感覚器系						
12	5.7.6(木)1・2	末梢神経系						
13	5.7.13(木)1・2	筋骨格系						
14	5.7.20(木)1・2	筋骨格系						
15	5.7.27(木)1・2	筋骨格系						
教科書 参 考 図 書		教科書：(仁藤担当)：藤田恒夫 著「入門人体解剖学」(南江堂) (村 担当)：坂井建雄 編「プロメテウス解剖学アトラス運動器系」(医学書院) (菊池担当)：坂井建雄 編「プロメテウス解剖学アトラス頭頸部/神経解剖」 (医学書院) 参考図書：渡辺皓 編著「図解ワンポイント 解剖学」(サイオ出版) 白澤信行ら著 「新発生学」(日本医事新報社) 牛木辰男 著 「入門組織学」(南江堂) 伊藤隆 著 「解剖学講義」(南山堂)						
履 修 上 の 注 意		授業は教科書に沿って、板書とプリントやスライドを用いて行う。 授業計画は変更される場合がある。 筆記試験の詳細は後日連絡する。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		解剖学は医療に携わる人の基礎知識です。単語の丸暗記ではなく、人体の構造を機能面・発生の学的観点から理解しつつ勉強すること。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		村 : 研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 菊池 : 研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 仁藤 : 研究室 26 mnito@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学Ⅰ		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要		生体の生理機能（身体の仕組み）について講義する。前半は人体の最小単位である細胞の特徴および細胞を調節するための機構と、動物の基本的な特性である「運動」がどのようにして行われるかについて、神経・筋の生理機能（動物性機能）を中心に講義する。生体機能学（生理学）と関係する物理学や化学の基本事項についても説明する。後半は植物性機能（生命機能の維持に必須な最低限の機能）について講義する。							
一般目標		この授業を通じて生命維持のために必要な基本的生理機能を理解して、体温、pH、浸透圧などの恒常性（ホメオスタシス）がどのように維持され、その破綻からどのような疾患がもたらされるか理解できることを目指す。動物性機能では、神経、筋、感覚などの機能がどのように関わりあって身体の動きが正常に行えるかについて理解する。植物性機能では、体液の pH、体温などの生体内環境が生理機能を統合して一定に保たれているという恒常性（ホメオスタシス）について理解する。							
到達目標		【動物性機能】 ○神経細胞の活動電位発生の機序を説明できる。○神経組織の構成要素について説明できる。○神経線維の分類を説明できる。○アセチルコリンおよびアドレナリン受容体の各サブタイプを分類して説明できる。○交感神経と副交感神経の機能について説明できる。○脳の構成を発生学的に説明できる。○脳死判定について説明できる。○ノンレム睡眠とレム睡眠の特徴を説明できる。○反射の要素を説明できる。○膝蓋腱反射および屈曲反射について説明できる。○正常な随意運動が起こるために必要な4つの部位とその障がいについて説明できる。○大脳基底核の役割と障がいについて説明できる。○骨格筋の微細構造について説明できる。○骨格筋の筋線維タイプを分類して説明できる。○骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。○骨格筋のエネルギー代謝について説明できる。○脳波および筋電図の原理について説明できる。○感覚の種類を分類して説明できる。○視覚、聴覚、平衡覚の特徴を説明できる。○関連痛について説明できる。 【植物性機能】 ○血液の生理作用を運搬、調節、防御に分けて説明できる。○血液凝固と線溶の概要を説明できる。○心臓および血管の構造と機能について説明できる。○不整脈について説明できる。○心拍出量および血圧の調節について説明できる。○心不全の原因および分類について説明できる。○肺サーファクタントの機能について説明できる。○肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。○糖質およびタンパク質の消化吸収の特徴を説明できる。○腎臓の血流の特徴を説明できる。○生体で作られる酸とアシドーシスについて説明できる。○尿細管における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。○体液量および血圧の液性調節について説明できる。○熱平衡について説明できる。○内分泌の階層的支配について説明できる。○下垂体後葉ホルモンの生理作用を説明できる。○副腎皮質および髄質ホルモンの生理作用を説明できる。○甲状腺ホルモンの分泌異常について説明できる。○性周期における女性ホルモンの変化について説明できる。○血糖を調節するホルモンについて説明できる。○血漿カルシウム濃度を調節するホルモンについて説明できる。○内分泌疾患について説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		動物性機能の範囲終了後と植物性機能の範囲終了後に、講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の試験を実施する。 動物性機能および植物性機能それぞれについて、満点の6割以上の得点で合格とする。6割未満の場合は、それぞれの範囲について再試験を1回に限り実施する。それぞれの試験の合計点で成績を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5.4.11（火）1	細胞の構造、膜電位			毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、必ず自分用のまとめノートを作り、学習した内容を確認して下さい。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭（またはネット配信）で回答します。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。 講義資料に教科書の参照ページを書きますので、毎回、必ず復習をしてください。		蓬田
2	5.4.11（火）2	興奮の発生と伝導							
3	5.4.18（火）1	神経組織の構造、神経系の分類と特徴							
4	5.4.18（火）2	興奮の伝達							
5	5.4.25（火）1	末梢神経系（自律神経系）と内臓機能							
6	5.4.25（火）2	末梢神経系（体性神経系）と運動機能							
7	5.5. 2（火）1	中枢神経系（脳の構造と機能）							
8	5.5. 2（火）2	中枢神経系（脊髄の構造と機能）							
9	5.5. 9（火）1	脊髄反射、脳幹反射							
10	5.5. 9（火）2	骨格筋の構造と機能							
11	5.5.16（火）1	筋収縮のメカニズム、興奮収縮連関							
12	5.5.16（火）2	運動の調節系、大脳基底核の機能							
13	5.5.23（火）1	筋電図、脳波							
14	5.5.23（火）2	感覚系の構成と機能							
15	5.5.30（火）1	動物性機能のまとめ							
16	5.5.30（火）2	血液・間質液・リンパ							
17	5.6. 6（火）1	体液の循環と移動・生体防御							
18	5.6. 6（火）2	心臓・血管の構造と機能							
19	5.6.13（火）1	心拍出量および血圧の調節							
20	4.6.13（火）2	心電図・心臓の神経支配							
21	5.6.20（火）1	呼吸の調節							
22	5.6.20（火）2	肺の呼吸機能・血液の酸塩基平衡							

23	5.6.27 (火) 1	消化器の作用と神経支配			
24	5.6.27 (火) 2	栄養分の吸収			
25	5.7.4 (火) 1	体温の調節機構			
26	5.7.4 (火) 2	腎臓の機能・体液量の調節			
27	5.7.11 (火) 1	尿の生成と排泄			
28	5.7.11 (火) 2	内分泌（視床下部・下垂体・甲状腺）			
29	5.7.18 (火) 1	内分泌（膵臓・副腎・性腺）			
30	5.7.18 (火) 2	植物性機能のまとめ			
教 参 考 図 書	科 書	教科書：佐久間康夫監修：カラー図解 よくわかる生理学の基礎(第2版)，メディカルサイエンスインターナショナル，2017 参考図書：小澤澪司ほか監修：標準生理学(第9版)，医学書院，2019（図書館蔵書）			
履 修 上 の 注 意		生体機能学（生理学）と生体形態学（解剖学）及び病理学は、人体がどのような構造で、どのように機能するときに健康な状態が保つこと出来るのか、健康な状態がどのように破綻すると疾病が生じるのかを理解するために必要な知識です。健康な（正常な）状態が理解できていなければ病気の状態も理解できませんので、しっかり学習して下さい。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		生体機能学Ⅰ（生理学）は、人体の成り立ちについて学ぶ最も基礎的な科目です。文法を知っていても単語の意味がわからなければ（暗記していなければ）文章が理解できないように、人体の成り立ちを理解するためには一定程度の暗記（知識の定着）は必要です。しかし、どんな現象にもかならず原理・理由がありますので、単なる暗記でなく、なぜそうなるかを考えて理解・納得することを期待しています。 講義の終了時に出席確認とともに質問を受け付けます。毎回、必ずひとつは質問するというくらいの積極性を持ってください。 講義時間の制限から、質問等の回答はネット配信を使用する場合があります。また、印刷物の資料を配付しますが、加えてネット上に各資料を PDF ファイルで配信しますので、そちらの利用にも慣れて下さい。			
e-mail・研究室 (連絡先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp			

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学Ⅱ	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	助 教・工藤 大輔	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	神経系の構造と機能、運動、感覚、記憶、感情、認知機能などの成り立ちを教授する。							
一般目標	1. 神経系の基本構造と情報伝達の仕組みを理解する。 2. 大脳、小脳、脳幹、大脳基底核、視床、大脳辺縁系、脊髄の構造と機能を理解する。 3. 運動や感覚の伝達経路と運動制御機構を理解する。 4. 記憶、感情の発現機構を理解する。							
到達目標	神経系の構造と機能を理解し、運動、感覚、記憶、感情、認知機能などの成り立ちを説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・各講義において出題する確認問題（40%） ・筆記試験（60%） ・上記2項目を合わせて100点満点として評価する							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28(木) 5	神経系の構造と機能	・神経系の構成と機能区分 ・神経細胞、神経膠細胞 ・シナプス伝達		同時期に生体形態学 (解剖) 実習がありま す。教科書で得た知識 を実際の脳脊髄で確 認して下さい。		工藤	
2	5. 10. 5(木) 5	神経系の情報伝導・ 伝達の仕組み	・神経系の情報伝導と伝達の仕組み ・シナプス可塑性					
3	5. 10. 12(木) 5	中枢神経系の構造と 機能	・大脳の役割と機能 ・脊髄の役割と機能					
4	5. 10. 19(木) 5	運動と感覚に関わる 伝導路の構造と機能	・運動と感覚に関わる伝導路 ・皮質脊髄路 ・体性感覚の伝導路					
5	5. 10. 26(木) 5	末梢神経系の構造と 機能	・脳神経の役割と機能 ・脊髄神経の役割と機能					
6	5. 11. 2(木) 5	小脳と脳幹の構造と 機能	・運動制御と学習における小脳の役割 ・運動制御と学習における脳幹の役割					
7	5. 11. 9(木) 5	大脳基底核の構造と 機能	・運動制御と学習における大脳基底核 の役割					
8	5. 11. 16(木) 5	間脳(視床)と大脳辺 縁系の構造と機能	・間脳の役割と機能 ・感覚経路としての視床の役割 ・記憶、感情、認知機能における大脳辺 縁系の役割					
教 科 書 参 考 図 書		教科書：病気がみえる⑦（脳・神経）MEDIC MEDIA 参考図書：カンデル神経科学 メディカルサイエンスインターナショナル 神経科学－脳の探求－ 西村書店 リハビリテーションのためのニューロサイエンス MEDICAL VIEW 神経科学の最前線とリハビリテーション 医歯薬出版株式会社						
履 修 上 の 注 意		複雑な神経機構を理解するためには、自らの生体活動を意識して、興味を持つことが必要です。 教科書の予習復習を心掛けて下さい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		ヒトがどのように動き、感じるのかについて、正常な神経機構を学習することは、疾患や障がい を理解する上で重要です。興味を持って講義に参加してください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		工藤大輔：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
栄養代謝学		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必 修	1	後期	1	非該当	可
授業概要		人体は約 37 兆個の細胞で成り立っていると言われている。人体が個体として生存するにはこれらの細胞一つ一つが正常に機能することが必要であるが、そこで営まれている活動は全て化学反応である。この講義では細胞内で行われている化学反応について理解を深め、食物として生体内に取り込んだ物質（栄養）がどのように吸収され、生体内でどのように変化していくのか、あるいは吸収された物質を元にどのような物質が新たに作られていくのか、その異常がどのように疾患に結びついていくのかを概説する。							
一般目標		生物の最小基本単位である「細胞」がどのように成り立っているのかを理解する。 食物から体内に取り込んだ栄養素（炭水化物・脂質・蛋白質）が生体内・細胞内でどのように変化し、利用されているのかを理解する。 遺伝の仕組みについて理解し、遺伝子の変異（異常）が生体の物質代謝に及ぼす影響を体感する。							
到達目標		○糖質の基本構造および分類について説明できる。○脂質の基本構造および分類について説明できる。○必須脂肪酸の分類（ω3 系、ω6 系）について説明できる。○アミノ酸の基本構造および分類について説明できる。○アミノ酸から作られる生体内物質について説明できる。○核酸の塩基の分解と関連する疾患について説明できる。○ビタミンを分類して主な生理作用について説明できる。○生体の必須ミネラルについて説明できる。○代謝性疾患の原因について説明できる。○アルコールの代謝について説明できる。 ○遺伝の仕組みについて説明できる。○遺伝子の異常が疾患に結びつくしくみを説明できる。 ○栄養素の摂取が疾患に及ぼす影響について予測できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の 6 割以上の得点を合格とし、6 割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 9. 25 (月)	4	イントロダクション・細胞の構造		毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭に回答します。 「アルコールの代謝」では、アルコールパッチテストを実施します。		シラバスを讀んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。 「生体機能学Ⅰ」や他の科目との関連を意識しながら学習してください。		蓬田
2	5. 10. 2 (月)	4	細胞を構成する分子・糖質						
3	5. 10. 16 (月)	4	細胞を構成する分子・脂質						
4	5. 10. 23 (月)	4	細胞を構成する分子・タンパク質						
5	5. 10. 30 (月)	4	細胞を構成する分子・核酸						
6	5. 11. 6 (月)	4	遺伝のしくみ						
7	5. 11. 13 (月)	4	物質の代謝・酵素反応						
8	5. 11. 20 (月)	4	物質の代謝・ビタミン						
9	5. 12. 4 (月)	4	アルコールの代謝						
10	5. 12. 4 (月)	5	〃						
11	5. 12. 11 (月)	4	物質の代謝と生合成・糖質 (1)						
12	5. 12. 18 (月)	4	物質の代謝と生合成・糖質 (2)、脂質						
13	5. 12. 25 (月)	4	物質の代謝と生合成・アミノ酸、核酸						
14	6. 1. 15 (月)	4	生化学的知識の臨床への応用						
15	6. 1. 22 (月)	4	講義のまとめ						
教 科 書 参 考 図 書		参考図書： 菌田 勝 編「栄養科学イラストレイテッド 生化学(第3版)」(羊土社) 林典夫、廣野治子 監修「シンプル生化学」(南江堂) 三輪一智、中 恵一 著「系統看護学講座 生化学・人体の構造と機能②」(医学書院)							
履 修 上 の 注 意		毎回、必ずひとつは質問するというくらいの積極性を持ってください。生体を生化学（栄養代謝学）とは別の視点から学ぶ科目が並行して開講されているので、互いに関連付けながら学習することが重要です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		生化学（栄養代謝学）や分子生物学は、目で見えない反応を化学式で追っていく、取り組みにくい科目だと思いますが、重要なポイントを押さえていくと理解しやすいと思います。一定の化学・生物学の知識が必要になりますが、高校で化学・生物学を履修していなくても理解できるように説明しますので、苦手意識を持たずに講義に参加してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床栄養学	看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師・ 楠本健二 教 授・遠藤和子	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	栄養学に関する基礎的な事項、疾病と栄養との関連、臨床現場で実際に提供される治療食等について板書およびスライド（パワーポイント）を用いて講義を行う。 将来、看護師として食支援に携わることにもなるが、その前段階として自らの食事についても考えてもらうための内容となる。							
一般目標	栄養学とはなんたるかについて理解する。 栄養と疾病との関連性および治療食の役割について理解する。							
到達目標	【認知領域】 栄養素について（種類、機能、消化、吸収、代謝等）説明することができる（知識・理解）。 病院等における食事の役割、重要性について述べる（知識・理解）。 【情意領域】 自らの食生活を振り返ることが出来る（関心・意欲）。 対象者のみならず自らの食事を見直すことが出来る（関心・意欲）。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 90%（期末）：講義内容について知識の定着度、応用力を基準として筆記試験によって評価する。 授業態度 10%：授業に取り組む姿勢を観察法にて評価する。 上記 2 項目を合わせて 100 点満点として評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	オリエンテーション 看護と栄養学の接点	栄養学の歴史、看護学と 栄養学の接点：食生態学 と食看護学の概要		「看護覚え書き」 を読んでおくとう 理解が深まります。		遠藤	
2	5. 10. 5 (木) 3	栄養学の歴史 食事摂取基準（2020 年版）について①	栄養学とは？ 総論と活用				楠本	
3	5. 10. 12 (木) 3	食事摂取基準（2020 年版）について②	活用、各論(エネルギー)				楠本	
4	5. 10. 19 (木) 3	食事摂取基準（2020 年版）について③	各論(たんぱく質・脂質)				楠本	
5	5. 10. 26 (木) 3	栄養状態の評価 栄養と疾病治療①	アセスメント 腎疾患、糖尿病				楠本	
6	5. 11. 2 (木) 3	栄養と疾病治療②	肝・胆・膵疾患				楠本	
7	5. 11. 9 (木) 3	栄養と疾病治療③	脂質異常症				楠本	
8	後日連絡	栄養と疾病治療④	心疾患・褥瘡				楠本	
教 科 書 参 考 図 書	教科書：コンパクト栄養学第 4 版、南江堂、定価 2,200 円+税 参考書：「看護覚え書き」F. ナイチンゲール，現代社 その他、栄養学、医学に関する書籍全般							
履 修 上 の 注 意								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	自分の普段の生活にも関わってくるテーマ（食事）ですので意欲的に学習してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	楠本健二：kusumoto@e.yamagata-u.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員	遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担当教員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
免疫と微生物	三学科共通 (専門基礎科目)	非常勤講師 水田 克巳 浅尾 裕信	看 護－必 修 理・作－選 択	2	前期	1	非該当	可
授業概要	私たちの身の回りには、多くの病原微生物が存在します。古くから大きな問題となってきた天然痘やペストなどの疫病が根絶あるいは激減する一方、HIV や結核、新型コロナウイルスなどの新興・再興感染症が問題となっています。免疫と微生物では、医療者が必要とする感染症についての基本的な知識を学修するとともに、そのような感染症や癌などを排除する免疫の仕組みについて学修します。また、免疫が関与するアレルギーや自己免疫疾患の病態についても概説します。							
一般目標	「微生物」病原体とその病原体が引き起こす感染症の特徴、感染経路、予防方法・対策、について医療に従事する上で基本的となる知識を習得することを目標とします。 「免疫」免疫系の仕組みと免疫系が関わる病気を理解し、医療従事者として必要な生体防御機構についての知識を身に着けることを目標とします。							
到達目標	「微生物」 1. 感染と感染症の違いについて説明できる。 2. 感染症発生の3要素（感染源・感染経路・宿主）について説明できる。 3. 細菌とウイルスの違いについて説明できる。 4. 代表的な細菌感染症とその対策について説明できる。 5. 代表的なウイルス感染症とその対策について説明できる。 6. 代表的な真菌・寄生虫感染症とその対策について説明できる。 「免疫」 1. 免疫系の一般特性（自然免疫、獲得免疫）について説明できる。 2. 病原微生物に対する免疫応答やその破綻による疾患を説明できる。 3. 免疫系の過剰応答により発症するアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。 4. 免疫系の機能不全により発症する先天性および後天性免疫不全症を説明できる。 5. 免疫系によるがんの監視機構について説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	免疫と微生物ではそれぞれ免疫学、微生物学として成績評価を行い、両方に合格する必要があります。それぞれの定期試験とミニテストの結果をもとに評価します。 定期試験では到達目標に上げた項目の中の基本的事項について、選択問題と記述問題の形式で出題する予定です。また、各回の授業の中で授業内容に関連したミニテストを行います。 合格点に達しなかった学生に対しては1回だけ再試験をすることがあります。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5. 4. 10 (月) 3	「微生物」 1 ヒトと感染症	主に、教科書「わかる！ 身につく！病原体・感染・ 免疫（南山堂）」を使いなが ら講義を進めます。	新聞・テレビ・インターネ ットにも感染症関連の報道は 多く、平易な説明が多いので、 関心をもって活用・理解する ことを心がけましょう。	水田			
2	5. 4. 17 (月) 3	2 感染・感染症の機構と種類						
3	5. 4. 24 (月) 3	3 感染症予防と感染制御						
4	5. 5. 1 (月) 3	4 細菌感染症	また、実際に世の中でお こっている事象を知ること も医療現場では大切な ので、新聞記事・報道資料 を活用していきます。					
5	5. 5. 8 (月) 3	5 ウイルス感染症						
6	5. 5. 15 (月) 3	6 真菌・寄生虫感染症						
7	5. 5. 22 (月) 3							
8	5. 5. 29 (月) 3							
9	5. 6. 5 (月) 3	「免疫」						
10	5. 6. 12 (月) 3	1 生体防御と免疫系	免疫機能に関する基本的 な用語・知識を講義とプリ ント、参考図書などを用い て学習します。それらをも とに、人の免疫応答を理解 し、さらにワクチンや検 査、治療など医療への応用 について学習します。	下記参考図書を用いて予習し ておくことで理解が容易になり ます。 授業の内容はプリントで配布 するとともに、山形大学医学 部免疫学講座のホームページ に掲載する予定ですので、適 宜復習してください。	浅尾			
11	5. 6. 19 (月) 3	2 免疫担当細胞とリンパ組織						
12	5. 6. 26 (月) 3	3 自然免疫						
13	5. 7. 3 (月) 3	4 獲得免疫（液性免疫）						
14	5. 7. 10 (月) 3	5 獲得免疫（細胞性免疫）						
15	5. 7. 24 (月) 3	6 アレルギーと自己免疫疾患 7 ワクチン						

※講義日程の詳細については、4月10日の最初の講義の際に通知します。			なお、閲覧は県立大学内のネット環境からのアクセス限定です。また、インターネットの情報を参考に学習する場合は、その出典に注意して、正しい知識を学んでください。	
教科書 参考図書	教科書：わかる！身につく！病原体・感染・免疫（南山堂）			
履修上の注意	「微生物」教科書を使いながら講義を進め、大切なことは繰り返し説明します。どうして感染症が発生するのか、その対策はどのようにしたらよいのか、常に意味を理解して考えながら学ぶことが大切です。 「免疫」教科書の第3章「免疫と生体防御機構」の内容を参考に講義を進めますので、予め読んでおくことで理解を深めることができます。			
学生へのメッセージ	講義ではスライドを使用しますが、内容は資料として配布する予定ですので、ノートをとることに集中せず、理解することに努めてください。講義では受け身にならず、疑問に思ったことは手をあげて質問するなど積極的に参加してください。			
e-mail・研究室 （連絡先）	水田：mizutak@pref.yamagata.jp 山形県衛生研究所（023-627-1373） （山形県衛生研究所ホームページアドレス） https://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/index.html 浅尾：asao-h@med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部免疫学講座（023-628-5263） （免疫学講座ホームページアドレス https://www.id.yamagata-u.ac.jp/Imm/）			
連絡調整 担当教員	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体形態学実習	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教 授 村 成 幸 教 授 菊池 昭夫 准教授 仁藤 充洋 助 教 理作持ち回り 非常勤講師 小林 裕人	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	リハビリテーションを学ぶ基礎として、人体各内部臓器の構造と相互関係を理解するために実習を行う。							
一般目標	人体各臓器の構造と臓器相互の位置関係、骨・筋・神経系の構造を理解し、リハビリテーションを学ぶ基礎とする。							
到達目標	臓器を指示しながら相互の位置関係や機能を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習中の学習により評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・ 学習方法	授業外学習 など	担当			
1	5.10. 6 (金) 3・4・5	神経系を含む人体各部分の標本の観察	解剖を行い、 実習する。 (人体組織学的実習、神経生理学的実習も含む)		村 他			
2	5.10.13 (金) 3・4・5	体表前面の観察						
3	5.10.20 (金) 3・4・5	体表前面の観察						
4	5.10.27 (金) 3・4・5	体表後面の観察						
5	5.11.10 (金) 3・4・5	体表後面の観察						
6	5.11.17 (金) 3・4・5	体幹前面筋の観察						
7	5.11.24 (金) 3・4・5	頸部・腕神経叢・下肢伸筋の観察						
8	5.12. 1 (金) 3・4・5	頸部・腕神経叢・下肢伸筋の観察						
9	5.12. 8 (金) 3・4・5	外来背筋・肩・殿筋・ハムストリングの観察						
10	5.12.15 (金) 3・4・5	胸腔臓器の観察						
11	5.12.19 (火) 3・4・5	胸腔臓器の観察						
12	5.12.22 (金) 3・4・5	腹腔臓器の観察						
13	5.12.26 (火) 3・4・5	腹腔臓器の観察						
14	6. 1. 5 (金) 3・4・5	固有背筋の観察・脊髄取り出し						
15	6. 1. 9 (火) 3・4・5	固有背筋の観察・脊髄取り出し						
16	6. 1.12 (金) 3・4・5	体幹切り離し・仙骨縦切						
17	6. 1.16 (火) 3・4・5	上肢・下肢						
18	6. 1.19 (金) 3・4・5	上肢・下肢						
19	6. 1.23 (火) 3・4・5	上肢・下肢						
20	6. 1.26 (金) 3・4・5	関節の観察・納棺						
教科書 参 考 図 書	教科書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系、頭頸部/神経解剖 参考図書：小川鼎三 他「解剖学」(金原出版)図書館にあり							
履 修 上 の 注 意	献体者のご厚意とご遺族の心情に報いるように真摯な態度で臨むこと。 必ず、予習すること。生体形態学、骨学、神経解剖学で配布したプリントも持参すること。 実習を指導してくださる山大医学部教官に敬意をもって接すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	構造・用語などを覚えるのはもちろんですが、体性感覚、視覚を駆使して、実習でしか得られない体験を心に刻んでください。一生の財産になります。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	村 　：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体機能学演習	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一 協力教員 教 授・佐藤 寿晃 准教授・仁藤 充洋 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔 助 教・井上 香 助 教・川勝 祐貴 助 教・高畑 未樹	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	呼吸、循環、腎機能、体温調節、活動電位、感覚、筋電図、脳波について基本的な測定を行うことによって各生理機能について理解を深められるように指導する。オリエンテーションで演習内容、データ解析および考察について詳しく説明する。							
一般目標	生理機能を測定する種々の機器を実際に使って、どのような機器で測定するか実感することができる。測定結果の処理を通してデータの意味、精度および統計処理等について理解を深めることができる。自らが被験者となることで、検査される側（患者）の気持ちが理解できる。							
到達目標	○心電図の標準 12 誘導について説明できる。○自律神経反射による心拍数の変化を説明できる。○血圧の測定に習熟する。○最大努力呼出曲線の測定法とその解析について説明できる。○酸素摂取量の求め方を説明できる。○酸素摂取量と基礎代謝量の関係を説明できる。○自由水クリアランスと不感蒸泄量の関係を説明できる。○尿を用いて健康に関するどのような情報が得られるか説明できる。○運動時の熱平衡について説明できる。○神経細胞の脱分極、過分極および再分極のイオン機序について説明できる。○2 点識別閾が皮膚の部位により異なる理由を説明できる。○筋電図の M 波の測定について説明できる。○脳波の基本的測定法について説明できる。○安静閉眼からの開眼および過呼吸による脳波の変化を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	演習内容に関する記述式の試験を試験週間中に行い、満点の 6 割以上の得点で合格とする。6 割未満の場合は再試験を 1 回行う。毎回の演習および課題発表への積極的参加についても評価の対象とする。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 11. 24 (金) 2	オリエンテーション	グループでの測定になりますが、見ているだけでなく積極的に測定に参加する必要があります。 課題発表では班ごとに 5 テーマ（脳波は筋電図と同じ班が発表）のひとつについて PowerPoint を用いて発表します。		演習プリントをよく読んでどのような測定をするか必ず予習をしてください。 演習の時間内に図書館に行って調べものをするものは構いませんが、教員にことわってください。			
2・3	5. 11. 30 (木) 4・5	各演習実施日に 1 課題ずつ、ローテーションで以下の演習を行う。						
4・5	5. 12. 7 (木) 3・4	○心電図, 血圧						
6・7	5. 12. 14 (木) 3・4	○呼吸機能 ○腎機能, 活動電位, 感覚						
8・9	5. 12. 21 (木) 3・4	○体温調節 ○筋電図						
10・11	6. 1. 4 (木) 3・4	※状況により演習課題が変更になる場合があります。						
12・13	6. 1. 11 (木) 3・4	脳波						
14・15	6. 1. 25 (木) 3・4	課題発表						
教 科 書 参 考 図 書	演習プリントをオリエンテーション時に配布する。 参考図書：日本生理学会編「新・生理学実習書」（南江堂） 杉 晴夫 著「コメディカルのための生理学実習ノート」（南江堂） 佐藤昭夫 監修「生理学実習 NAVI」（医歯薬出版）							
履 修 上 の 注 意	演習を行う前に必ず演習プリントに目を通しておく。演習は見ているだけでは履修の成果は上がらないので積極的に参加する。わからないところは質問し、自分でも調べ、考えることが大切である。 前期に履修した「生体機能学Ⅰ」の内容について復習しておく。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	測定機器は慣れないと触るのが恐いし、慣れてしまうと安易に操作してしまう。いま自分がこのスイッチを入れればどうなるかを考えながら実験する慎重さが必要とされます。使用装置の原理・限界を理解し、よりよい方法がないか考えるくらいになることを期待します。 演習課題について、これまでに修得した知識からどのような結果が予想されるのかあらかじめ考えた上で演習に臨んで下さい。また、予想のものと異なる結果が得られた場合、その原因を考えることが極めて重要です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp							

授業科目名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
薬理学	看護学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	現代の医療は、大きく分けると3つの柱（生活指導[疾病予防]・薬物療法・外科手術）によって行われているが、そのなかで薬物療法は中心的な役割を担っており、医療に携わる人間は、医薬品に関する一定の知識を持つことが求められる。薬理学では、医薬品がどのように疾患の治療に寄与しているのか、基本的な事項について概説するとともに、自律神経系および中枢神経系の薬理学についての講義を行う。							
一般目標	「薬が効く」とはどういうことか認識し、作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得する。 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を修得する。							
到達目標	○疾病の背景と薬による治療の基本概念が説明出来る。○薬物の用量と作用の関係を説明できる。○薬の作用する仕組みについて、受容体・酵素・イオンチャネルを例に挙げて説明出来る。○薬の吸収・分布・代謝・排泄について学び、投与方法の違いによる薬の体内動態と作用発現の特徴を説明出来る。○薬の作用に影響を及ぼす因子を列挙し、その背景を説明出来る。○薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。○副作用と有害事象の違いについて説明できる。○自律神経系による生体機能調節について説明出来る。 ○以下に挙げる薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用(有害作用)について説明できる。・交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物　・副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物　・運動神経に作用する代表的な薬物　・知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）・代表的な全身麻酔薬　・代表的な催眠薬　・代表的な鎮痛薬　・代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬　・代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬　○麻薬性鎮痛薬の作用・副作用(有害作用)を列挙し、その機序・臨床適応について説明出来る。							
成績評価方針 評価方法 および基準	講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題				学習内容 ・学習方法	授業外学 習など	担当
1	5.4.11（火）5	イントロダクション、薬の概念、医薬品と法令				毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次の講義の冒頭に回答します。	シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しいければ復習に重点を置いてください。	蓬田
2	5.4.18（火）5	薬物の主作用・副作用・有害作用						
3	5.4.25（火）5	薬物と治療効果の関係、薬物の血液中濃度						
4	5.5. 2（火）5	薬物の投与方法と体内動態（ADME）（1）						
5	5.5. 9（火）5	薬物の投与方法と体内動態（ADME）（2）						
6	5.5.16（火）5	薬物の標的と細胞内情報伝達						
7	5.5.23（火）5	末梢神経系の薬理学(1)筋弛緩薬、局所麻酔薬						
8	5.5.30（火）5	末梢神経系の薬理学(2)自律神経作用薬(1)						
9	5.6. 6（火）5	末梢神経系の薬理学(3)自律神経作用薬(2)						
10	5.6.13（火）5	末梢神経系の薬理学(4)自律神経作用薬(3)						
11	5.6.20（火）5	中枢神経系の薬理学(1)全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬						
12	5.6.27（火）5	中枢神経系の薬理学(2)抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬						
13	5.7. 4（火）5	中枢神経系の薬理学(3)抗精神病薬、抗うつ薬						
14	5.7.11（火）5	中枢神経系の薬理学(4)認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬						
15	5.7.18（火）5	講義のまとめ						
教科書 参考図書	教科書：渡邊泰秀ほか編：コメディカルのための薬理学（第3版），朝倉書店，2018 参考図書：今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂 （注：後期開講の「臨床薬理学」では教科書として指定していますので、「臨床薬理学」受講予定の学生は「薬理学」履修の際に購入しておくことを強く勧めます）							
履修上の注意	「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。							
学生への メッセージ	医療の現場以外でも、正しい薬の知識を持っていると役に立つことが多いです。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）および病理学で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。							
e-mail・研究室 （連絡先）	蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床薬理学	看護学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必 修	2	後期	1	非該当	可
授業概要	臨床の現場で遭遇する種々の病態がどのようなメカニズムにより発現するのか、またその症状を改善するためにはどのような薬物療法を行えば良いのか、薬物の薬理作用に基づいて解説する。また、薬物を使用した際に注意すべき副作用についても講義する。							
一般目標	呼吸器系、内分泌系、消化器系、腎、血液・造血器系、代謝系、炎症・アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識を修得する。 人体に疾患を生じる細菌、ウイルスなどに対する薬物の作用機序を理解し、抗菌薬などに関する基本的知識を修得する。							
到達目標	○代表的なアレルギー疾患治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。○代表的な抗炎症薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的な関節リウマチの治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な高血圧症治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。○代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○代表的な制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。○代表的な止血薬・抗血栓薬・造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。○カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。○抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。○代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。○代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。○主要な化学療法薬の作用機序と主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外学習 など	担当
1	5. 9. 28 (木) 3	臨床薬理学総論・新薬の開発・薬害			毎回講義資料を配付しますが、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しいければ復習に重点を置いてください。	蓬田
2	5. 10. 5 (木) 3	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (1)						
3	5. 10. 12 (木) 3	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2)						
4	5. 10. 19 (木) 3	呼吸器系疾患と治療薬						
5	5. 10. 26 (木) 3	循環器系疾患と治療薬 (1) 抗高血圧薬・抗狭心症薬						
6	5. 11. 2 (木) 3	循環器系疾患と治療薬 (2) 抗不整脈薬・強心薬						
7	5. 11. 9 (木) 3	腎臓に作用する薬 利尿薬						
8	5. 11. 16 (木) 3	血液の病態と治療薬 (1) 貧血治療薬						
9	5. 11. 22 (水) 4	血液の病態と治療薬 (2) 抗凝血薬・抗血小板薬						
10	5. 11. 29 (水) 4	消化器系疾患と治療薬 (1) 消化性潰瘍治療薬						
11	5. 12. 20 (水) 4	消化器系疾患と治療薬 (2) 制吐薬						
12	5. 12. 26 (火) 3	代謝性疾患と治療薬 (1) 糖尿病治療薬						
13	6. 1. 9 (火) 3	代謝性疾患と治療薬 (2) 高脂血症治療薬						
14	6. 1. 16 (火) 3	化学療法薬						
15	6. 1. 23 (火) 3	講義のまとめ			また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭に回答します。			
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂 参考図書：渡邊泰秀ほか編：コメディカルのための薬理学（第3版），朝倉書店，2018 （注：前期開講の「薬理学」で教科書に指定しています。講義の際に参考にして下さい。） 吉岡充ほか著：薬理学 14 版：系統看護学講座専門基礎分野，医学書院，2018 町谷安紀著：イラストで理解するかみくだき薬理学，南山堂，2018						
履 修 上 の 注 意		「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		種々の疾患の治療に用いられる薬物について講義します。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）や病理学で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp						

授業科目名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
薬理・臨床薬理学		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	准教授・蓬田 伸一	必修	2	前期	2	非該当	可
授業概要		現代の医療は、大きく分けると3つの柱（生活指導[疾病予防]・薬物療法・外科手術）によって行われているが、そのなかで薬物療法は中心的な役割を担っている。理学・作業療法に携わる専門職が薬物療法に直接関わる場面は限られるが、対象とする患者のほとんどは何かの薬物治療を受けており、服用する薬物の種類によっては理学・作業療法に影響を及ぼす可能性も考えられる。したがって、薬物療法に直接関わることは無くても、疾患の治療や回復に携わる人間として薬物についての一定の知識を持っていることが求められる。本科目では、医薬品がどのように疾患の治療に寄与しているのか、基本的な事項について概説するとともに、頻用される治療薬の作用や注意点について講義する。							
一般目標		「薬が効く」とはどういうことか認識し、作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得する。 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を修得する。化学物質としての医薬品と食品・サプリメントの違いについて理解する。 医療現場で使用されることが多い治療薬の作用機序と代表的な副作用（有害作用）について理解する。							
到達目標		○疾病の背景と薬による治療の基本概念が説明出来る。○薬物の用量と作用の関係を説明できる。○薬の作用する仕組みについて、受容体・酵素・イオンチャネルを例に挙げて説明出来る。○薬の吸収・分布・代謝・排泄について学び、投与方法の違いによる薬の体内動態と作用発現の特徴を説明出来る。○薬の作用に影響を及ぼす因子を列挙し、その背景を説明出来る。○薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。○副作用と有害事象の違いについて説明できる。○医薬品と栄養素・サプリメントの違いについて説明できる。 ○以下に挙げる薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用(有害作用)について説明できる。・代表的な抗炎症薬、解熱鎮痛薬　・代表的な循環器系疾患（高血圧、不整脈、虚血性心疾患、心不全）治療薬（抗血小板薬を含む）　・代表的な鎮痛薬、神経因性疼痛治療薬　・代表的な催眠薬　・代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）治療薬　・代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）治療薬　○リハビリテーション施行時に注意すべき薬物の副作用（有害作用）を予測できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		講義内容全般に関する記述式（語句を記入する問題を含む）の定期試験を試験期間内に実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容 ・学習方法		授業外学習など		担当
1	5.4.11（火）5	イントロダクション、薬の概念、医薬品と法令 薬物の主作用・副作用・有害作用 薬物と治療効果の関係、薬物の血液中濃度 薬物の投与方法と体内動態（ADME）（1） 薬物の投与方法と体内動態（ADME）（2） 薬物の標的と細胞内情報伝達 自律神経作用薬の概要と有害作用 痛みの発生機序とその制御 炎症反応とその制御 神経疾患とその制御 精神疾患とその制御 循環器系疾患とその制御（1） 循環器系疾患とその制御（2） 眠りの機序と催眠薬 講義のまとめ			毎 回 講 義 資 料 を 配 付 し ま す が、資料に書き込み等をするだけでなく、自分用のまとめノートを作るようにすると、知識が身につきます。 また、講義終了時に出席確認と併せて質問を受け付け、次回の講義の冒頭に回答します。		シラバスを読んで予習することが望ましいですが、難しければ復習に重点を置いてください。		蓬田
2	5.4.18（火）5								
3	5.4.25（火）5								
4	5.5. 2（火）5								
5	5.5. 9（火）5								
6	5.5.16（火）5								
7	5.5.24（水）1								
8	5.5.31（水）1								
9	5.6. 7（水）1								
10	5.6.14（水）1								
11	5.6.21（水）1								
12	5.6.28（水）1								
13	5.7. 5（水）1								
14	5.7.12（水）1								
15	5.7.19（水）1								
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：内山靖ほか編：リハベーシック薬理学・臨床薬理学，医歯薬出版，2020 参考図書：笹栗俊之著：患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門-くすりを正しく用いるために-，九州大学出版会，2016 今日の治療薬-解説と便覧-（最新版），南江堂							
履 修 上 の 注 意		「生体機能学Ⅰ」「病理学」の内容について、十分に復習・理解しておくこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		医療の現場以外でも、正しい薬の知識を持っていると役に立つことが多いです。単なる丸暗記ではなく、生理学（生体機能学Ⅰ）で学習した内容と照らし合わせて理解することを心掛けて下さい。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
病理学	看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 北岡 匠	必修	1	後期	1	非該当	可
授業概要	本授業は、いわゆる「病理学総論」に相当する科目で、種々の疾病における原因（病因）、発症の機序、進展過程、臨床像との関連、転帰、対応や治療戦略などについて、前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、器官・組織・細胞の変化として、総論的に学習する。							
一般目標	1 保健医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方を理解する 2 病的状態における細胞、組織、器官の変化を理解する 3 各種疾病における発症・進展の要因、メカニズムを考察する 4 生体に起る個別の病的状態を正確に把握し、理解する基盤を涵養する							
到達目標	・病理学とはどのような分野であるか認識する ・病理学的考え方、病理学的手法を説明できる ・医療における病理医の役割を説明できる ・疾病の原因を分類し、それぞれを列挙できる ・細胞の適応と変性における変化を説明できる ・ネクロシスとアポトーシスの相違を説明できる ・先天性疾患を分類できる ・遺伝性疾患を分類し、その発症様式を説明できる ・染色体異常をしめす代表的疾患を列挙できる ・代表的な奇形の形態を説明できる ・代謝障害に基づく細胞、組織の変化を説明できる ・代謝障害に基因する代表的な疾患の特徴を説明できる ・糖尿病に代表される生活習慣病および関連疾患の定義、診断基準、病態、治療と対応の概要を説明できる ・局所の循環障害における病態を説明できる ・全身の循環障害に基づく疾患の病態を説明できる ・炎症のメカニズムを説明できる ・炎症に関与する細胞を列挙できる ・急性炎症と慢性炎症の相違を説明できる ・炎症の種類を列挙できる ・肉芽腫性疾患の病理学的特徴を説明できる ・組織の再生・修復の過程を説明できる ・自然免疫と獲得免疫の相違を説明できる ・細胞性免疫と液性免疫のメカニズムを概説できる ・アレルギーを分類し、それぞれの機序を説明できる ・代表的な自己免疫疾患を列挙し、それぞれの病態を説明できる ・免疫不全の病態を説明できる ・感染症の発症機序、感染経路、病態を説明できる ・病原微生物を分類し、それぞれの特徴、惹起する病態を列挙できる ・腫瘍の概念を説明できる ・良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を比較できる ・腫瘍の発生のメカニズム、要因、関与する遺伝子などを説明できる ・癌腫と肉腫の相違を説明できる ・悪性腫瘍の進展様式、担癌個体の状態を説明できる ・個体の老化にともなう組織・細胞の変化を説明できる ・個体の死の概念を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 9. 27 (水) 4	序論・病因論	病理学の概念 疾病の外因と内因 (病因論)	時間の関係で、講義の中で全ての項目に触れる事は難しいので、不足の部分は参考教材 (教科書、参考図書、図書館の図書、ビデオなど) を積極的に活用し自主的に補充学習すること	北岡 他
2	5. 10. 4 (水) 4	適応、変性、細胞死	刺激に対する細胞の種々の応答とそれに伴う変化		
3	5. 10. 11 (水) 4	先天疾患 (遺伝性疾患・奇形・胎児性疾患)	先天性疾患の分類、病態、対応		
4	5. 10. 18 (水) 4	代謝異常および生活習慣病の病態	代謝性疾患の分類、病態生活習慣病、とくに糖尿病についての疫学・病態・治療について最新の知見の紹介		
5	5. 10. 25 (水) 4				
6	5. 11. 1 (水) 4	循環障害	局所および全身性循環障害の病態		
7	5. 11. 8 (水) 4				
8	5. 11. 15 (水) 4	炎症	炎症総論および炎症各論		
9	5. 11. 22 (水) 4	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全	免疫の基礎と免疫に関係する各種疾患 (アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全) の病態		
10	5. 12. 6 (水) 4				
11	5. 12. 13 (水) 4	感染と感染症	各種病原体の特徴とそれによって引き起こされる病態 (感染症) について、概説		
12	5. 12. 20 (水) 4				
13	6. 1. 10 (水) 4	腫瘍	腫瘍総論 腫瘍各論 悪性腫瘍の疫学・病態・臨床		
14	6. 1. 17 (水) 4				
15	6. 1. 24 (水) 4	老化と死	老化のメカニズム、心臓死と脳死		
教科参考図書		教科書：はじめの一步の病理学 -第2版- (羊土社) 参考図書： ① Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease (Elsevier-Saunders) ② Strayer DS, Rubin E Rubin's Pathology: Clinicopathologic Foundations of Medicine, (LWW) ③ Damjanov Pathology for the Health Professions (Elsevier-Saunders) ④ 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎 (編) 標準病理学 第4版 (西村書店) ⑤ 松原修、真鍋俊明 (著) カラーアトラスー病理組織の見方と鑑別診断 第5版 (医歯薬出版)			
履修上の注意		前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、疾患を器官・組織・細胞の形態学的変化として理解するので、上記の内容を十分に復習し、理解・修得しておくこと			
学生へのメッセージ		病気についての基本的な事を学ぶ重要な講義であり、国家試験の準備や将来の職業にも直結しているので、能動的な姿勢で講義に臨んでほしい。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や疾病名を英語で覚えるようにすること			
e-mail・研究室 (連絡先)		北岡 匠：t-kitaoka @med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部病理学講座			
連絡調整担当教員		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
病理学	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 北岡 匠	選択	1	後期	2	非該当	可
授業概要	本授業は、いわゆる「病理学総論」に相当する科目で、種々の疾病における原因（病因）、発症の機序、進展過程、臨床像との関連、転帰、対応や治療戦略などについて、前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、器官・組織・細胞の変化として、総論的に学習する。							
一般目標	1 保健医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方を理解する 2 病的状態における細胞、組織、器官の変化を理解する 3 各種疾病における発症・進展の要因、メカニズムを考察する 4 生体に起る個別の病的状態を正確に把握し、理解する基盤を涵養する							
到達目標	・病理学とはどのような分野であるか認識する ・病理学的考え方、病理学的手法を説明できる ・医療における病理医の役割を説明できる ・疾病の原因を分類し、それぞれを列挙できる ・細胞の適応と変性における変化を説明できる ・ネクロシスとアポトーシスの相違を説明できる ・先天性疾患を分類できる ・遺伝性疾患を分類し、その発症様式を説明できる ・染色体異常をしめす代表的疾患を列挙できる ・代表的な奇形の形態を説明できる ・代謝障害に基づく細胞、組織の変化を説明できる ・代謝障害に基因する代表的な疾患の特徴を説明できる ・糖尿病に代表される生活習慣病および関連疾患の定義、診断基準、病態、治療と対応の概要を説明できる ・局所の循環障害における病態を説明できる ・全身の循環障害に基づく疾患の病態を説明できる ・炎症のメカニズムを説明できる ・炎症に関与する細胞を列挙できる ・急性炎症と慢性炎症の相違を説明できる ・炎症の種類を列挙できる ・肉芽腫性疾患の病理学的特徴を説明できる ・組織の再生・修復の過程を説明できる ・自然免疫と獲得免疫の相違を説明できる ・細胞性免疫と液性免疫のメカニズムを概説できる ・アレルギーを分類し、それぞれの機序を説明できる ・代表的な自己免疫疾患を列挙し、それぞれの病態を説明できる ・免疫不全の病態を説明できる ・感染症の発症機序、感染経路、病態を説明できる ・病原微生物を分類し、それぞれの特徴、惹起する病態を列挙できる ・腫瘍の概念を説明できる ・良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を比較できる ・腫瘍の発生のメカニズム、要因、関与する遺伝子などを説明できる ・癌腫と肉腫の相違を説明できる ・悪性腫瘍の進展様式、担癌個体の状態を説明できる ・個体の老化に伴う組織・細胞の変化を説明できる ・個体の死の概念を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 9. 27 (水) 4	序論・病因論	病理学の概念 疾病の外因と内因（病因論）	時間の関係で、講義の中で全ての項目に触れる事は難しいので、不足の部分は参考教材（教科書、参考図書、図書館の図書、ビデオなど）を積極的に活用し自主的に補充学習すること	北岡 他
2	5. 10. 4 (水) 4	適応、変性、細胞死	刺激に対する細胞の種々の応答とそれに伴う変化		
3	5. 10. 11 (水) 4	先天疾患（遺伝性疾患・奇形・胎児性疾患）	先天性疾患の分類、病態、対応		
4	5. 10. 18 (水) 4	代謝異常および生活習慣病の病態	代謝性疾患の分類、病態生活習慣病、とくに糖尿病についての疫学・病態・治療について最新の知見の紹介		
5	5. 10. 25 (水) 4				
6	5. 11. 1 (水) 4	循環障害	局所および全身性循環障害の病態		
7	5. 11. 8 (水) 4				
8	5. 11. 15 (水) 4	炎症	炎症総論および炎症各論		
9	5. 11. 22 (水) 4	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全	免疫の基礎と免疫に関係する各種疾患（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全）の病態		
10	5. 12. 6 (水) 4				
11	5. 12. 13 (水) 4	感染と感染症	各種病原体の特徴とそれによって引き起こされる病態（感染症）について、概説		
12	5. 12. 20 (水) 4				
13	6. 1. 10 (水) 4	腫瘍	腫瘍総論 腫瘍各論 悪性腫瘍の疫学・病態・臨床		
14	6. 1. 17 (水) 4				
15	6. 1. 24 (水) 4	老化と死	老化のメカニズム、心臓死と脳死		
教科参考図書		教科書：はじめの一步の病理学 -第2版-（羊土社） 参考図書： ① Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease (Elsevier-Saunders) ② Strayer DS, Rubin E Rubin's Pathology: Clinicopathologic Foundations of Medicine, (LWW) ③ Damjanov Pathology for the Health Professions (Elsevier-Saunders) ④ 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎（編）標準病理学 第4版（西村書店） ⑤ 松原修、真鍋俊明（著） カラーアトラスー病理組織の見方と鑑別診断 第5版（医歯薬出版）			
履修上の注意		前期で学習した生体形態学、生体組織学、生体機能学の基盤の上に、疾患を器官・組織・細胞の形態学的変化として理解するので、上記の内容を十分に復習し、理解・修得しておくこと			
学生へのメッセージ		病気についての基本的な事を学ぶ重要な講義であり、国家試験の準備や将来の職業にも直結しているので、能動的な姿勢で講義に臨んでほしい。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や疾病名を英語で覚えるようにすること			
e-mail・研究室（連絡先）		北岡 匠：t-kitaoka@med.id.yamagata-u.ac.jp 山形大学医学部病理学講座			
連絡調整担当教員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅰ		三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月正博 名誉教授・八巻通安	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要		将来、医療を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器系、アレルギー・膠原病疾患の領域において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、治療の概要などを学習し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標		1 呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器系、アレルギー・膠原病疾患の領域における代表的な疾患の病態および臨床的特徴を理解する。 2 上記分野の疾患や障がいについての治療あるいは対応、予防法を考察する。							
到達目標		・心・循環器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・虚血性心疾患の病態、治療、介助などを説明できる ・不整脈を分類し、その治療法を概説できる ・先天性心疾患を列挙し、その治療法を概説できる ・動脈硬化症および本態性高血圧症の病態、合併症、治療、介入法などについて説明できる ・呼吸器疾患・呼吸機能障がいにおける臨床徴候および検査診断法を概説できる ・慢性閉塞性肺疾患の病態と対応を説明できる ・呼吸器領域における感染症を列挙し、それぞれの特性と治療法を説明できる ・呼吸器領域における腫瘍性病変を分類し、それぞれの診断法、治療法を概説できる ・腎・泌尿器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・急性・慢性腎不全の病態と対応を説明できる ・各種糸球体疾患を分類し、それぞれの特性を説明できる ・腎・泌尿器領域における感染症を列挙し、それぞれの特性と治療法を説明できる ・腎・泌尿器領域における腫瘍性病変を分類し、それぞれの診断法、治療法を概説できる ・排尿障がいの病因を分類し、それぞれに対する対応を概説できる ・前立腺肥大症および前立腺腫瘍の病態、臨床徴候、治療法、対応を概説できる ・男性生殖器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・男性生殖器における腫瘍性疾患を列挙し、それぞれの病態、診断法、治療法を説明できる ・女性生殖器疾患における臨床徴候および検査診断法を概説できる ・性感染症および骨盤内炎症性疾患を列挙し、それぞれの特性、診断法、治療法を説明できる ・女性生殖器における腫瘍性疾患を列挙し、それぞれの病態、診断法、治療法を説明できる ・妊娠、出産に伴う病態を概説できる ・膠原病・自己免疫疾患を分類し、代表的疾患における病態、検査診断法、治療法、対応を概説できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		受講態度、テスト（レポート）の総合評価							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5.4.11（火）4	循環器疾患・心臓機能障がい	心臓ならびに血管を主座とする各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。			八巻	
2	5.4.18（火）4							八巻	
3	5.4.25（火）4							八巻	
4	5.5. 2（火）4	呼吸器系疾患・呼吸障がい	呼吸器系器官の各種疾患についての病態、疫学、臨床、診断、治療					八巻	
5	5.5. 9（火）4							八巻	
6	5.5.16（火）4							八巻	
7	5.5.23（火）4	女性生殖器系疾患	女性生殖器系器官（卵巣、子宮、外陰）、妊娠・出産に関連する各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療					八巻	
8	5.5.30（火）4							八巻	
9	5.6. 5（月）1	男性生殖器系疾患	男性生殖器系器官（精巣、前立腺、陰茎）に関連する各種疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療					上月	
10	5.6.12（月）1							上月	

11	5. 6. 19 (月) 1	腎・泌尿器系疾患	腎・泌尿器系器官の各種疾患についての病態、疫学、臨床、診断、治療		上月
12	5. 6. 26 (月) 1				上月
13	5. 7. 3 (月) 1				上月
14	5. 7. 10 (月) 1	膠原病・自己免疫疾患	主要な膠原病・自己免疫疾患の病態、疫学、臨床、診断、治療		上月
15	5. 7. 24 (月) 1				上月
教科参考図書		教科書：看護のための臨床病態学 南山堂			
履修上の注意		具体的なスケジュールや内容についてはさらに初回の講義において詳しく案内する。			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大である。授業ではその <u>一部について最低レベルをふれるのみ</u> となる。したがって、上記の参考図書や図書館などを利用して、 <u>授業以外の時間にも自分でより広く学習することが必須である</u> 。また、積極的に英語の文献を読み、専門用語や述語を英語で覚えること。			
e-mail・研究室(連絡先)		上月正博：kohzuki@yachts.ac.jp 学長室 (686-6601)			

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅱ	三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月正博 名誉学長・前田邦彦	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	将来医療を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、消化器系、血液・造血器系、皮膚、感覚器系（眼、耳、鼻）の領域において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、診断・治療の概要などを学習し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標	1、消化器系、血液・造血器系、皮膚、感覚器系、耳鼻咽喉系の領域における代表的な疾患の病態および臨床的特徴を理解する 2、上記分野の疾患や障がいについて治療あるいは対応・予防法を修得する							
到達目標	・消化器系疾患における主要な臨床徴候、疫学、検査・診断方法を説明できる ・上部消化管の炎症性疾患の病態、診断、予防・対応を概説できる ・消化性潰瘍の病態、診断、予防・対応を概説できる ・消化管の運動異常や循環障がいについて、その病理、診断、治療を説明できる ・吸収障がいとそれに基づく病態を列挙できる ・炎症性腸疾患の病態と治療対応を説明できる ・食道、胃、大腸の腫瘍性疾患について、その病理、診断、治療を説明できる ・ウイルス性肝炎を分類し、それぞれの特性、検査法、予防法を概説できる ・肝硬変の病態、合併症、対応を説明できる ・肝腫瘍を分類し、それぞれの病理、診断法、治療について説明できる ・胆道系の炎症・腫瘍について、それぞれの病理、診断法、治療を説明できる ・急性膵炎、慢性膵炎の原因、病態、検査、治療、対応を説明できる ・膵腫瘍を分類し、それぞれの病理、診断法、治療について説明できる ・血液・造血器系疾患における主要な臨床徴候、検査診断方法を説明できる ・貧血の病態、診断、予防・治療法を概説できる ・急性白血病を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を説明できる ・骨髄増殖性疾患を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を説明できる ・出血性疾患・凝固異常を分類し、それぞれの病態、検査診断法、治療を概説できる ・脾腫をきたす疾患を分類し、それぞれの原因、特性を説明できる ・リンパ増殖性疾患を分類し、それぞれの病理、臨床的特質、治療を説明できる ・皮膚疾患における主要な臨床徴候、検査診断方法を説明できる ・非感染性皮膚炎、水疱性疾患、角化異常症について病理、臨床的特質、治療を説明できる ・皮膚の母斑症および関連腫瘍について、病理、臨床的特質、治療を説明できる ・耳鼻咽喉疾患における主要な臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・中耳炎の病態、臨床徴候、治療法、介入などを概説できる ・聴力障がい（難聴）、メニエール病、良性発作性頭位めまい症などについて、その臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応について概説できる ・前庭障がいの原因と対応について説明できる ・鼻疾患（アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、鼻・副鼻腔腫瘍など）について、その臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応を概説できる ・口腔・咽頭・喉頭疾患（味覚障害、睡眠時無呼吸症候群、口腔～喉頭腫瘍などを含む）について、それぞれの臨床徴候、検査・診断方法、治療・対応を概説できる ・音声障害・構音障害・言語障害を分類し、それぞれの特徴を説明できる ・嚥下のメカニズムを説明し、嚥下障害を分類できる ・各種唾液腺疾患について、臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・視覚器疾患における主要な臨床徴候、検査・診断方法を概説できる ・屈折異常、眼瞼疾患、角・結膜疾患、強膜疾患について、その診断、治療、予防を説明できる ・網膜眼底疾患について、病理、臨床的特質、治療を説明できる ・白内障および緑内障について、病態、診断、治療法を説明できる							
成績評価方針 評価方法 および基準	（中間試験および）定期試験の総合成績で評価。ただし、積極的に質問をするなどの普段の学習態度も加味する。尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							

授業計画					
回	日付	授業項目・ 学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1	5. 4. 10（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
2	5. 4. 12（水）1	皮膚疾患	皮膚を主座とする各種疾患の病理・臨 床症候・診断・治療		前田
3	5. 4. 17（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
4	5. 4. 19（水）1	皮膚疾患	皮膚を主座とする各種疾患の病理・臨 床症候・診断・治療		前田
5	5. 4. 24（月）1	消化器系疾患（消化 管疾患）	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛 門管の疾患についての疫学・病理・臨 床症候・診断・治療		上月
6	5. 5. 1（月）1				上月
7	5. 5. 8（月）1	消化器系疾患（肝・ 胆・膵疾患）	肝臓、胆道(胆管・胆嚢)、膵臓の疾患 の病理・臨床症候・診断・治療		上月
8	5. 5. 15（月）1				上月
9	5. 6. 8（木）3	耳鼻咽喉科領域疾患	外耳、中耳、内耳、鼻腔、喉頭などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		青柳
10	5. 6. 15（木）3				青柳
11	5. 7. 5（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
12	5. 7. 6（木）3	眼科領域疾患	角結膜、ブドウ膜、網膜、眼窩などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		大村
13	5. 7. 12（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
14	5. 7. 13（木）3	眼科領域疾患	角結膜、ブドウ膜、網膜、眼窩などの 疾患の病態・臨床症候・診断・治療		大村
15	5. 7. 19（水）4	血液・造血器系疾患	末梢血液、骨髄、脾臓、リンパ節など を主座とする各種疾患の疫学・病態・		前田
教科書		教科書：看護のための臨床病態学（南山堂）			
参考図書		参考図書： ① はじめの一步のイラスト病理学（羊土社） -- 「疾病科学」 で用いた教科書 ② 臨床病態学 1 ～ 3 （ヌーベルヒロカワ） ③ 系統看護学講座 成人看護学シリーズ（医学書院） ④ 標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）内科学、第3版（医学書院） ⑤ ナーシング・グラフィカシリーズ（呼吸・循環機能障害、栄養代謝機能障害など）（MC メディカ出版） ⑥ チーム医療従事者のための臨床医学全科（金芳堂）			
履修上の注意		具体的なスケジュールや内容についてはさらに初回の講義において詳しく案内する。			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその <u>一部</u> について最低レベルをふれるのみとなる。上記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、 <u>授業以外の時間にも自分でより広く学習をすることが必須である</u> 。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読み、専門用語や述語を英語で覚えること。			
e-mail・研究室（連絡先）		上月正博：kohzuki@yachts.ac.jp 学長室（686-6601）			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
成人老年疾病論Ⅲ		看護学科 (専門基礎科目)	教授・石川 仁 教授・菊池 昭夫 教授・村 成幸 非常勤講師・諏佐 真治	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		将来、看護を担う者としては、疾患に罹患している対象者の病状を正しく評価し、そのヘルスニードを判断する能力を涵養するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療、予防などについての最新の知見の理解と習得が必須である。本講義では、歯・口腔疾患、脳・神経疾患、代謝・内分泌疾患、運動器疾患、乳腺疾患の各分野において、代表的な疾患の病理所見や臨床的特徴、治療の概要などを説明し、医療専門職として、それらの疾患に適切に対応しうる科学的基盤を確立する。							
一般目標		1、脳・神経疾患、運動器疾患、代謝・内分泌疾患、歯・口腔疾患、乳腺疾患の領域における代表的な疾患・障害の病態および臨床的特徴を理解する 2、上記分野の疾患や障害についての治療あるいは対応・予防法を考察する							
到達目標		・各種ホルモン過剰症、低下症にともなう臨床徴候および検査診断法を概説できる ・脳下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島の疾患について、病態、臨床徴候、診断法、治療と介助を説明できる ・糖尿病の診断基準、分類、病態、合併症、治療について述べることができる ・脂質異常症の分類、病態、合併症、治療について説明できる ・肥満症の疫学、病態、予防について説明できる ・尿酸代謝異常、痛風の病態、治療、予防について説明できる ・脳血管障害の原因、病態、診断検査法、治療について説明できる ・脳腫瘍・脊髄腫瘍を分類し、各々の病理、好発部位、治診断、治療を説明できる ・中枢神経の変性疾患、感染症、脱髄性疾患について概説できる ・頭部外傷における病態、治療・対応、介護などを説明できる ・中枢神経系の先天性疾患について、概説できる ・運動器の構造を理解し、それが障害される疾患について説明できる ・関節の働きを理解し、変形性関節症、関節リウマチ、発育性股関節形成不全の病態を述べることができる ・脊髄損傷、上肢、下肢におこる代表的な骨折あるいは外傷を説明できる ・主要な骨腫瘍および軟部腫瘍の病理、診断、治療を説明できる ・歯、口腔、舌、顎関節、唾液腺における疾病、障害を列挙し、それぞれの臨床徴候、検査法、治療法、介助などを説明できる ・乳癌について、その疫学、臨床的特徴、病理、検査診断法、鑑別診断、治療を概説できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		講義終了後の筆記試験の成績で評価。ただし、学習態度も加味する。尚、合格基準は100点満点に換算して、60点以上をもって、合格とする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 2	授業オリエンテーション 内分泌・代謝性疾患	脂質異常症、肥満・メタボリック症候群、尿酸代謝異常			本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、下記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。		石川 諏佐	
2	5. 10. 5 (木) 2	内分泌疾患	内分泌疾患 下垂体、甲状腺					諏佐	
3	5. 10. 12 (木) 2		内分泌疾患 副甲状腺、副腎、その他					諏佐	
4	5. 10. 19 (木) 2	脳・神経疾患	脳血管障害、中枢神経の変性疾患、感染症、脱髄性疾患、脳・脊髄腫瘍などの病態・臨床・診断・治療					菊池	
5	5. 10. 26 (木) 2							菊池	
6	5. 11. 2 (木) 2							菊池	
7	5. 11. 9 (木) 2							菊池	
8	5. 11. 16 (木) 2	代謝性疾患	糖尿病の病態、分類、急性合併症					諏佐	
9	5. 11. 30 (木) 2		糖尿病の慢性合併症、治療、その他					諏佐	
10	5. 12. 7 (木) 2	運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、関節リウマチ、外傷・スポーツ傷害、骨・					村	
11	5. 12. 15 (金) 1							村	

12	5. 12. 21 (木) 2		軟部腫瘍などの病態・臨床・診断・治療		村
13	6. 1. 11 (木) 2	歯・口腔疾患	歯口腔の基礎と口腔ケア		スポット (柴田)
14	6. 1. 18 (木) 2	歯・口腔疾患	歯、舌、顎関節、唾液腺疾患		スポット (青柳)
15	6. 1. 29 (月) 4	乳腺疾患	乳腺疾患の病理・診断・治療		スポット (木村)
教科書		教科書：各講師から説明			
参考図書		参考図書： ① 看護のための臨床病態学（南山堂） ② はじめの一步のイラスト病理学（羊土社）--「疾病科学」で用いた教科書 ③ 臨床病態学1～3（ヌーベルヒロカワ） ④ 系統看護学講座 成人看護学シリーズ（医学書院） ⑤ ナーシング・グラフィカシリーズー呼吸・循環機能障害、栄養代謝機能障害などー（MCメディア出版） ⑥ チーム医療従事者のための臨床医学全科（金芳堂）			
履修上の注意		多人数の講師によって、オムニバス形式で講義が行われるので、講義の日程・場所については常に掲示などを注意すること			
学生へのメッセージ		本講義が担当する分野は膨大で、授業ではその一部についてふれるのみとなるので、上記の参考図書や図書館、インターネットなどを利用して、授業以外の時間にもより広く学習をすること。また、医療のグローバル化に対応するために、積極的に英語の文献を読んだり、専門用語や述語を英語で覚えるようにすること。			
e-mail・研究室（連絡先）		石川仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
リハビリテーション概論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・鈴木 克彦	必修	1	前期	2	非該当	可
授業概要	リハビリテーションに関する基本的知識を教授する								
一般目標	1. リハビリテーションの歴史や法的根拠、概容などを知る。 2. リハビリテーションへの理学療法士や作業療法士の関わりを知る。 3. 現在のリハビリテーションの考え方を理解し、諸外国の現状を知る。								
到達目標	1. リハビリテーションの概念を説明できる。 2. リハビリテーションに関わる専門職の特性を説明できる。 3. リハビリテーションにおけるチーム・アプローチのあり方を説明できる。 4. リハビリテーションに関連する保健・医療・福祉・介護の基本的な知識を習得する。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	5. 4. 10 (月) 1	リハビリテーションの理念	a リハビリテーションの定義・歴史、b ノーマライゼーション、c 自立生活、d QOL、e 総合リハビリテーション リハビリテーション医療の定義と歴史				佐藤		
2	5. 4. 17 (月) 1	リハビリテーションの諸相	a 医学的リハビリテーション、b 教育的 リハビリテーション、c 職業的リハビリ テーション、d 社会的リハビリテーショ ン				鈴木 (克)		
3	5. 4. 24 (月) 1	リハビリテーションに関わる アスリートへのアプローチ 1	a アスリートへの関わり方の資格や歴史 b スポーツ現場での関わり方				スポット (芹川)		
4	5. 5. 1 (月) 1	リハビリテーションに関わる アスリートへのアプローチ 2	a アスリートへのリハビリテーション b 山形県内でのアスリートへの取り組み				スポット (芹川)		
5	5. 5. 8 (月) 1	医学・生命科学におけるリハビ リテーションの存在とその意 義について	個人に即応し、綿密な計画の基に実践す ることが求められているリハビリテー ションには、社会性や個人に備わった能 力を十分に引き出すことが求められて いることについて学ぶ。				スポット (片方)		
6	5. 5. 15 (月) 1	疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類 (ICD)、b 国際生活機能 分類 (ICF)				鈴木 (栄)		
7	5. 5. 22 (月) 1	リハビリテーションの専門職 に求められる資質Ⅰ	理学療法士・作業療法士が身につけてお くべき資質を学ぶ。演習を含む。				佐藤		
8	5. 5. 29 (月) 1	生活について	生活とは何かについて学ぶ。障がい者が 在宅で医療を受けながら生活していく ことを考える。人や環境の多様性につ いて学ぶ。				鈴木 (由)		
9	5. 6. 5 (月) 1	リハビリテーションに関わる 専門職 (理学療法士)	理学療法士の役割と活動の概容を学ぶ。				工藤		
10	5. 6. 12 (月) 1	リハビリテーションに関わる 専門職 (作業療法士)	作業療法士の役割と活動の概容を学ぶ。				佐藤		
11	5. 6. 19 (月) 1	リハビリテーションに関わる 専門職 (他職種)	保健・医療・福祉・介護の領域における、 理学療法士・作業療法士以外の専門職に ついて、役割と活動の概容を学ぶ。				丹野		
12	5. 6. 26 (月) 1	リハビリテーションにおける チーム・アプローチ	チームに関する基本的理解と、チーム・ アプローチを学ぶ。				丹野		
13	5. 7. 3 (月) 1	リハビリテーションの専門職 に求められる資質Ⅱ	理学療法士・作業療法士が身につけてお くべき資質を学ぶ。演習を含む。				佐藤		
14	5. 7. 10 (月) 1	患者・障害者の心理・社会的側 面	死生観、QOL について、障がい受容につ いて				スポット (藤原)		
15	5. 7. 24 (月) 1	リハビリテーションのあり方	リハビリテーションとは何かを学生間 で検討する。				佐藤 加藤		

教科書 参考図書	資料を配布します。参考図書は随時紹介します。
履修上の注意	特になし
学生への メッセージ	目的意識を持って、積極的に講義に参加してください。
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木克：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
救急医療学	理学・作業療学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 武田 健一郎	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	1) 救急医療の実際について現場の医師が講義を行う。 2) ショックの病態など生命予後に関わる様々な病態を教授する。 3) 最新の救急蘇生法を理解し、その技術を教授する。							
一般目標	1) 救急医療の現状・実際を理解する。 2) バイタルサインの重要性を理解する。 3) 心肺停止による各臓器への影響を理解する。脳志向型蘇生としての体温管理療法を理解する 4) 心肺停止傷病者に対し、心肺蘇生法を実践する。							
到達目標	1) バイタルサインを測定し、その測定結果を適切に評価できる。 2) ショック、外傷など救急疾患を理解し、その初期治療について説明できる。 3) 日常的に遭遇する救急疾患について応急処置を実践できる。 4) 脳死の概念を理解し、日本の臓器移植の現状について説明できる。 5) 日本全国で整備が進んでいるドクターヘリの現状について説明できる。 6) 心肺停止の患者に対して、医療者として実際の現場で心肺蘇生法を実践することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1) 講義の理解の程度：講義中に確認します。50％ 2) 実習での知識技術の習得状況：実際の手技を行ってもらい確認します。50％							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5.10. 3 (火) 3	救急医療概論	救急医療の現状、実際について学ぶ。			実習前に、4 回 目の講義で扱 う「心肺蘇生 法」の内容を 必ず確認して ください。	武田	
2	5.10.10 (火) 3	バイタルサイン ショックについて	バイタルサインの重要性を理解し、その測定方法、 結果の解釈方法を学ぶ。 ショックの種類とそれぞれへの対処法を学ぶ。					
3	5.10.17 (火) 3	熱中症について 脳死、臓器移植につい て	毎年夏に話題となる熱中症についてその原因と対 処法について学ぶ。 脳死の概念と判定基準、臓器移植の実際について学 ぶ。					
4	5.10.24 (火) 3	心肺停止について 心肺蘇生法について ドクターヘリについ て	心肺停止の原因とそれによる身体への影響につい て学ぶ。 ガイドラインに基づいた心肺蘇生法について学ぶ。 ドクターヘリの概念と活用方法について学ぶ。					
5 ～ 8	5.11.18 (土) 1-4	心肺蘇生法 (実習)	蘇生練習用の人形を用いて、一次救命処置、気道異 物除去、マスク換気、AED 等を実践する。 (5～8 回は県立中央病院医師、看護師 8 名が講師 となります)					
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しません。毎回講義内容の資料を配布します。 参考図書：救急蘇生法の指針《2020》へるす出版（最新版を確認してください）						
履 修 上 の 注 意		前半の 4 回は座学、後半の 4 回は実習になります。 講義では実際の救急現場で遭遇する疾患・外傷の写真や動画を個人情報に配慮したうえで使用します。 救急医療は時間が勝負です。実技は何度も繰り返し身体で覚えるようにして下さい。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		いつ何時あなたの周りで大切な家族が、または見知らぬ人が、突然心肺停止状態になるかもしれません。 あなたが行動を起こさなければその人を救う事はできません。医療従事者を志す者として基本的な救急 医療の知識を持ち、心肺蘇生の手技を習得しておくことは必須です。この講義・実習を通して自信を持 って傷病者の救助が出来るようになって下さい。 適切なスピードでの講義に努めます。不明な点は積極的に質問してください。 最新のトピックも講義内容に含めます。配布資料は毎年更新します。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		教務学生課						
連 絡 調 整 担 当 教 員		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生殖遺伝学	看護学科 (専門基礎科目)	教授・遠藤 恵子	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	性と生殖に関する形態機能と影響する薬剤、および遺伝の基礎的な知識を教授する。							
一般目標	1. 生殖の構造と機能を理解する。 2. 薬物が生殖機能に与える影響を理解する。 3. 性と生殖に関する主な異常を理解する。							
到達目標	1. ライフサイクル各時期における性機能について説明できる。 2. 生殖器の構造を説明できる。 3. 生殖機能に関連する薬物とその作用を説明できる。 4. 薬物が胎児に与える影響を説明できる。 5. 人体の発生の機序を説明できる。 6. 生殖器の腫瘍や生殖機能の異常とその治療について説明できる。 7. 遺伝と出生前診断の基本を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験によって到達目標 1～7 の到達度を評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当	
1	5. 11. 6 (月) 5	生殖機能とライフサイク ル	性機能の発達、性周期				遠藤	
2	5. 11. 13 (月) 5	生殖器の構造	男性生殖器、女性生殖器、骨盤周辺の筋肉				仁藤	
3	5. 11. 20 (月) 5	不妊、生殖補助医療	不妊の検査、治療				スポット (宍戸)	
4	5. 11. 27 (月) 5	遺伝と出生前診断	遺伝相談、出生前診断				遠藤	
5	6. 1. 17 (水) 4	生殖と薬物	生殖機能に関連する薬物、ホルモン薬				蓬田	
6	6. 1. 17 (水) 5	人体の発生	染色体、受精、胚、性分化				スポット (前田)	
7	6. 1. 24 (水) 4	先天異常と薬害	催奇形性、薬害による胎児への影響				蓬田	
8	6. 1. 24 (水) 5	生殖器の主な疾患	生殖器の腫瘍、感染症				スポット (前田)	
教 科 書 参 考 図 書		参考書：授業内で紹介します						
履 修 上 の 注 意		既習の知識や科目を復習して授業に臨んでください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・性と生殖の特徴を学ぶとともに、自身の性と生殖について考える機会にしてください。 ・この授業科目は、周産期生活支援実習においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
基礎保健学		看護学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 邵 力	必修	2	後期	1	非該当	可
授業概要		情報が溢れている現在、保健・医療・介護に関するデータを活用する際に、情報の内容と質を見極める能力が必要とされている。本講義では疾病の予防における疫学の役割を解説する。さらに、種々の医療保健情報に用いられる健康指標・研究デザインについて説明し、正しく情報を判断できる能力を身につけさせる。							
一般目標		健康・疾病の概念について理解し、疫学の考え方及びその応用について学び、看護師として必要な公衆衛生、予防医学、保健医療に関する知識を習得する。							
到達目標		1. 健康及び予防医学の概念について説明できる。 2. 疫学の考え方及び役割について理解できる。 3. 疾病統計の指標や国民衛生の動向について解説できる。 4. 疫学研究デザインの種類及びその長所・短所について理解できる。 5. わが国における感染症の発生動向及び新型コロナウイルス感染症対策について説明できる。 6. 生活習慣と疾病との関係とその予防について説明できる。 7. がんの疫学及びがん予防について説明できる。 8. 根拠に基づく看護における疫学の役割について理解できる。 9. 遺伝要因と環境要因と疾患発症との関連について了解する。 10. ゲノム医療の概念及びがんゲノム医療の現状と課題について了解する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		方針：定期試験で評価する(100%)。 方法：筆記試験で講義内容の理解度、知識の応用力を評価する（授業終了後）。 基準：60 点以上を合格とする。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25 (月) 2	疫学入門			予防医学と疫学			邵	
2	5. 10. 2 (月) 2	疫学指標			健康・疾病統計の指標				
3	5. 10. 16 (月) 2	疫学研究方法			疫学研究デザイン				
4	5. 10. 23 (月) 2	疫学の応用 1：感染症疫学			感染症の予防と COVID-19				
5	5. 10. 30 (月) 2	疫学の応用 2：生活習慣病に関する疫学調査			生活習慣病の予防				
6	5. 11. 6 (月) 2	疫学の応用 3：がんの予防			がんの疫学とがん検診				
7	5. 11. 13 (月) 2	疫学の応用 4：EBN（根拠に基づく看護）			EBM と保健医療データ利活用				
8	5. 11. 20 (月) 2	疫学の応用 5：分子疫学とゲノム医療			ヒトゲノム計画とゲノム医療				
教 科 書 参 考 図 書		教科書： 基本からわかる看護疫学入門（第3版）（医歯薬出版） 参考図書： 公衆衛生マニュアル 2023（南山堂） 図説国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会） はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版（南江堂） 基礎から学ぶ遺伝看護学（羊土社）							
履 修 上 の 注 意		1. 初めて聞く言葉や専門用語が多いので、授業後配布資料や教科書を用いて復習してください。 2. 各回の配布資料の最後にある練習問題を必ず解くようにしてください。 3. 欠席した場合、授業の配布資料は翌週の授業の時に必ず受け取るようにしてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		与えられるものは有限、求めるものは無限。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		邵 力：shori@med.id.yamagata-u.ac.jp (山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座)							
連 絡 調 整 担 当 教 員		栗田敦子：第2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名		必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
保健統計学		看護学科 (専門基礎科目)	助 教	栗田 敦子 非常勤講師 大益 史弘	必修	2	後期	2	非該当	可
授業概要		集団の健康課題を把握するための健康指標とそれらを導き出す統計解析手法等について教授する。さらに 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出ができるよう、統計解析手法の演習を行う。								
一般目標		1. 健康指標の構造や基本的考え方を理解し、健康指標を算出するための方法を修得できる。 2. データ解析結果に基づいた考え方を修得できる。 3. 人口統計や保健統計調査を理解できる。 4. 集団の健康指標を可視化し、健康課題抽出するためのデータの統計学的解析の具体的方法を修得できる。								
到達目標		1. 保健統計学の概要について説明することができる。 2. 健康指標の構造と各々の健康指標が持つ課題について具体的に述べることができる。 3. 人口統計や保健統計調査の特徴と各々の人口統計が持つ課題について具体的に述べることができる。 4. 統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化ができる。 5. 基本的なデータの事例を用いて、健康課題が抽出できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・定期試験 60%：保健統計学の基礎的知識と考え方、保健統計の実際 ・演習の成果物 40%：統計学的手法を用いてデータの解析と集団の健康指標を可視化した成果物								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 1	保健統計指標 I		・保健統計学の概要と、人口問題につ いて学習する。					大益	
2	5. 10. 2 (月) 1	保健統計指標 II		・出生と死亡を中心とした健康の指標 について学習する。					大益	
3	5. 10. 6 (金) 5	平均・分散・標準偏差		・様々な平均値と標準偏差の算出方法、 また、それらの表す事象を学習する。					大益	
4	5. 10. 16 (月) 1	相関係数		・相関の意味と相関係数の算出方法に ついて学習する。					大益	
5	5. 10. 20 (金) 5	回帰直線		・直線回帰式の表わし方と求め方を学 習する。					大益	
6	5. 10. 23 (月) 1	検定の理論		・正規分布性と確率分布曲線をもとに して検定の理論について学習する。					大益	
7	5. 10. 30 (月) 1	いろいろな検定法 I		・F 分布曲線と T 分布曲線をもとにした 検定方法を学習する。					大益	
8	5. 11. 6 (月) 1	いろいろな検定法 II		・カイ 2 乗分布曲線をもとにした検定 方法を学習する。					大益	
9	5. 12. 4 (月) 1	表計算ソフトの活用 (情報処理方法とデー タの可視化)		・データファイルの作成、データセッ ト、表を作成する、関数を使う、グ ラフを書く(統計図表の作成) ・情報処理の基礎 ・健康情報の可視化			情報処理の基礎をふ まえ、健康情報の可 視化のための個別演 習を実施する。		栗田・ スポット 講師	
10	5. 12. 11 (月) 2									
11	5. 12. 18 (月) 2									
12	5. 12. 25 (月) 2									
13	6. 1. 15 (月) 2									
14	6. 1. 22 (月) 1	健康課題の抽出		・数的データを用いて健康課題の抽出 を行う。					スポット (後藤)	
15	6. 1. 22 (月) 2	・国民保健の現状 ・保健統計調査		・健康指標、人口動態、人口静態につ いて学習する。 ・基幹統計及びその他の統計調査、医 療経済統計について学習する。					スポット (後藤)	
教 科 書 参 考 図 書		教科書：「やさしい保健統計学 改訂第 5 版」縣俊彦著(南江堂)								
履修上の注意		基礎保健学や保健医療福祉政策論及び公衆衛生看護学概論と関連付けて学ぶこと								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		保健統計は公衆衛生看護の活動展開のためには重要な知識と技術です。集団をとらえ、集団の特徴を表現 する手法を積極的に身につけてください。								
e-mail・研究室 (連絡先)		栗田敦子：第 2 共同研究室 akurita@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
国際保健論	三学科共通 (専門基礎科目)	教授・佐藤 寿晃	選択	2	後期	2	非該当	否
授業概要	国際保健論では文化の異なる社会に暮らす人々の健康と人々の置かれている状況を認識し、各諸国の保健システムや国際協力の実際について説明する。							
一般目標	世界の健康格差の現状とその社会・経済・文化的な背景を理解し、保健医療分野における国際協力のニーズと日本の役割で理解する。							
到達目標	1. 国際保健で用いられる指標の意味と読み方を理解し、世界の健康格差の現状を説明できる。 2. 各諸国の保健医療システムについて理解できる。 3. 国際協力の概要と実際を理解できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針・方法 到達目標内容をまとめたレポート（800 字程度）で評価します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1 2 3 4 5 6 7 8	集中講義 (後日連絡)	＜国際保健論 総論＞ 国際保健の目指すゴールは「公平と社会正義」の実現である。これは統制的理念の一つであり、それに向かって活動すべき方向性を示している。その実現のため、本コースでは以下のことを学んでいく。平等と公平の違いは何か。許しがたい健康格差とは何か。サステイナビリティとは何か。そのためのアプローチとしてのポジティブ・デビエンス手法とは何か。ヘルスプロモーションとは何か。これらを世界の具体的事例をもとに学んでいく。 (神馬征峰先生)					佐藤 (神馬)	
9 10 11 12 13 14 15	集中講義 (後日連絡)	国際保健論＜各論＞ ・日本の開発途上国への母子保健協力 ・日本の開発途上国へのリハビリテーション分野の協力、 ・国際障害者の権利条約 ・多職種連携教育					佐藤 (吉田) (李)	
教 科 書 参 考 図 書		各授業では必要な資料を配付します。						
履 修 上 の 注 意		集中講義となります。事前に日程は連絡します。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		保健をキーワードに異文化を理解する眼を養ってください。						
e-mail・研究室 (連 絡 先)		佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
チーム医療論	三学科共通 (専門基礎科目)	学 長・上月 正博 教 授・石川 仁 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美 准教授・丹野 克子 講 師・槌谷由美子 教 授・遠藤 恵子	必修	3	通年	1	非該当	否
授業概要	チーム医療の概念およびチーム医療に参加する専門職の役割について教授するとともに、職種間の相互理解を深めながら協働してチーム医療を実践する能力を養う。							
一般目標	1. チーム医療とは何かを理解できる 2. チーム医療における患者医療者関係が理解できる 3. チーム医療における倫理性を考察する 4. チーム医療の実際を学び、チームの成員となる職種について理解する 5. 専門的立場からチーム医療に参加する姿勢を身につける							
到達目標	・チーム医療の概念について説明できる ・チーム医療における患者医療者関係について説明できる ・チーム医療を担う職種間の相互理解について説明できる ・各職種間のチームでの役割や連携について説明できる ・三学科合同のグループでの演習や討議にチームの一員として主体的に参加することができる ・事例について得られた情報を分析し、チームで目標を設定することができる ・良好な医療チームを形成し意見交換することができる ・相互理解を深めながら、目標に到達するための方法を討議することができる ・課題学習のプロセスをまとめたレポートを作成することができる ・グループ学習の成果をまとめ発表することができる ・多職種の役割と活動状況などについて聴講することができる ・チーム医療に関する今後の課題を示すことができる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	・レポート（課題に関する知識・考察の内容を評価する）、学習態度(授業への参加態度、積極性、理解度などを評価する)で総合的に判断する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 13 (木) 1	1. 授業概要・序論 チーム医療概論 専門職の協働 2. 事例検討	1. 授業概要説明・序論（講義） チーム医療とは何か、チーム医療における患者医療者関係・職種間相互理解の基本、各医療専門職の概要など			授業で示す課題についてのレポートや報告書の作成、グループ討論などは、適宜、授業外の時間も利用して学習を行う		各講義の担当については授業の中で周知する
2	5. 4. 20 (木) 3		・緩和ケアチームの実際					
3	5. 4. 27 (木) 3		・NST チームの実際					
4	5. 5. 11 (木) 3		・感染対策チームの実際					
5	5. 5. 18 (木) 3		・在宅医療チームの実際					
6	5. 5. 25 (木) 3		・大規模災害時の支援チームの役割					
7	5. 6. 1 (木) 3		2. 事例検討（グループワーク）					
8	5. 6. 8 (木) 3		事例（ペーパー・ペーシエント）を題材に、					
9	5. 6. 15 (木) 3		専門的立場から分析し、グループ討議により					
10	5. 6. 22 (木) 3		目標設定や適切なアプローチを探る					
11	5. 6. 29 (木) 3							
12	5. 7. 6 (木) 3							
13	5. 7. 13 (木) 3							
14	5. 7. 20 (木) 3							
15	5. 7. 27 (木) 3							
教科書 参考図書	教科書：なし 参考図書：実践チーム医療論―実際と教育プログラム―(インタープロフェッショナル・ヘルスケア) 医歯薬出版株式会社							
履修上の注意	演習を主体とした授業も予定しているので、主体的・能動的に講義に臨む。この授業科目は、総合実習Ⅰ（作業療法学科）においてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	三学科合同で演習グループを編成するので、学科の枠を超えて積極的に交流し、授業の中でもチーム医療の実践を体験する。							
e-mail・研究室 (連絡先)	上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 石川：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 槌谷：研究室 29 ytsuchiya@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高次脳機能障がい論		三学科共通 (専門基礎科目)	准教授・外川 佑	看 護－選択 理・作－必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	・脳の機能と構造について教授する。 ・高次脳機能障がい有する対象者の臨床像について教授する。								
一般目標	・脳の機能と構造を理解する。 ・高次脳機能障がい有する対象者の病態とその評価方法を理解する。								
到達目標	・脳の機能と構造を説明できる。 ・高次脳機能障がい有する対象者の障害像を解釈・説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験（60%）、講義内復習小テスト（40%）をあわせて 100 点満点として評価する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 20（木） 3	高次脳機能障がい学総論	高次脳機能障がいの概要、脳の構造と機能、大脳動脈とその灌流領域				覚えることが多いので、復習をしっかりとってください。 授業に臨むにあたって、関連図書を読んでおく と理解が進みやすいです。	外川	
2	5. 4. 27（木） 3	注意障がい	注意機能の分類と症状、注意障がいの責任病巣、注意障がいの評価、注意障がいに対する支援						
3	5. 5. 11（木） 3	半側空間無視とその関連症状	半側空間無視の症状と評価、半側空間無視の責任病巣、半側空間無視に対する支援、身体に対する無視症候群、バリント症候群						
4	5. 5. 18（木） 3	認知の障害	失認の症状と評価、失認の責任病巣、失認に対する支援						
5	5. 5. 25（木） 3	行為・行動の障がい	失行の症状と評価、失行の責任病巣、失行に対する支援、動作の抑制・開始・出力・維持の障がい						
6	5. 6. 1（木） 3	言語障がい	失語症患者の言語症状、失語症のタイプ分類、失語の評価、失語に対する支援						
7	5. 6. 6（火） 4	記憶障がい	記憶のプロセス、記憶の分類、記憶障がいの評価、記憶障がいに対する支援						
8	5. 6. 13（火） 4	遂行機能障がい	遂行機能の要素、遂行機能障がいの症状と評価、遂行機能障がいに対する支援						
教 科 書 参 考 図 書		教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 【参考図書】 石合純夫：高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版社 平山和美：高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 大槻閑人、子鹿ゆずる：アンメット-ある脳外科医の日記- 講談社							
履 修 上 の 注 意		特になし							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		高次脳機能障がいについて学ぶことを通して、高次脳機能に関する理解を深め、臨床現場で対象者への対応に活かしてほしい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		外川 佑： 研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
精神障がい論	三学科共通 (専門基礎科目)	教 授・安保 寛明 教 授・菊池 昭夫 講 師・佐々木 学	必修	2	前期	1	非該当	可
授業概要	精神の健康が障がいされた状態あるいは精神機能が阻害された状態について、生理・心理・社会的な要因の影響とその影響を教授するとともに、精神科医療や精神保健福祉における診断，治療，リハビリテーションの構造を教授する。 また、精神機能の低下がもたらす本人や周囲の人が経験しがちな事項と回復への経過について、社会的包摂やチーム医療，地域連携などの観点から教授する。							
一般目標	精神機能が阻害される要因とその状態がもたらす影響について理解することで、精神的危機や精神機能の低下が起きた人に対する適切な理解をもつことができ、全人的な医療に関与することができる。							
到達目標	精神症状の適切な査定と背景の推察ができ、精神症状を有する人への基本的な対応が記述できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験 80%（筆記）、講義への参加度 20%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12（水）2	精神障がい基礎総論	パワーポイント、ビデオなどを使用した講義形式 ※授業項目の順番や内容は変更になる可能性があります。				佐々木	
2	5. 4. 14（金）5	老年期における精神障害（Ⅰ）					菊池	
3	5. 4. 19（水）2	社会的リハビリテーション					佐々木	
4	5. 4. 21（金）5	老年期における精神障害（Ⅱ）					菊池	
5	5. 4. 28（金）5	身体因性精神障害					菊池	
6	5. 5. 10（水）2	統合失調症（Ⅰ）					スポット （安孫子）	
7	5. 5. 12（金）5	身体因性精神障害					菊池	
8	5. 5. 17（水）2	統合失調症（Ⅱ）					スポット （安孫子）	
9	5. 5. 24（水）2	気分障害（Ⅰ）					スポット （井上）	
10	5. 5. 31（水）2	物質使用・行動障害（Ⅰ）					スポット （小林）	
11	5. 6. 7（水）2	物質使用・行動障害（Ⅱ）					スポット （小林）	
12	5. 6. 14（水）2	気分障害（Ⅱ）					スポット （井上）	
13	5. 6. 28（水）2	地域精神保健，社会的包摂（Ⅰ）					安保	
14	5. 7. 5（水）2	障がい者福祉，社会的包摂（Ⅱ）					安保	
15	5. 7. 19（水）2	まとめ					安保・佐々木	
教 科 書 参 考 図 書	参考図書 谷岡哲也他，メディカルスタッフのための精神医学，中外医学社（看護学科、理学療法学科） 大熊輝雄，現代臨床精神医学，金原出版株式会社（作業療法学科）							
履 修 上 の 注 意	予習をしてから講義に臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	欠席・遅刻のないように自己管理をしっかりと講義に臨むことを希望します。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	安 保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 菊 池：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 佐々木：研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
小児疾病論		看護学科 (専門基礎科目)	教 授・石川 仁 非常勤講師・鈴木恵美子 非常勤講師・森 福治	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	出生前、新生児、乳児期、幼児期、学童期、思春期に至る小児の成長・発達を踏まえ、小児における代表的疾患について病態と治療を学び、その特質についての理解を深め、看護への手がかりとする								
一般目標	1. 小児の特性、小児に特有な疾患の病態や診断治療について理解する 2. 小児の成長発達に適した看護を考えるための基礎知識を習得する 3. 疾患や症状、またその治療が小児に及ぼす影響を考察する								
到達目標	・染色体異常に基づく疾患を列挙し、その臨床徴候を概説できる ・胎児期における障がいとその対応を説明できる ・小児期における主たる感染症を列挙し、その起因微生物、感染経路、徴候、診断、治療、予防法を説明できる ・小児感染症の集団発生事例への対応を説明できる ・予防接種の対象疾患、意義および副反応等への対応を説明できる ・小児期のアレルギー疾患を分類し、各々の特徴を説明できる ・各種免疫不全症の病態、診断法を説明できる ・小児期における主たる膠原病を概説できる ・小児期における主要な腎・泌尿器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な生殖器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な内分泌疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な呼吸器疾患を列挙し、その特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な消化器疾患を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・小児期における主要な血液疾患を列挙し、その特徴、検査診断法、治療法を説明できる ・小児期の非造血系悪性腫瘍について、その病理、臨床的特徴、診断、治療法を概説できる ・小児期における主要な循環器疾患、とくに先天性心疾患を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・川崎病の診断基準と治療、対応を説明できる ・小児期における主要な代謝異常を列挙し、その臨床的特徴、診断、治療法を説明できる ・小児の運動器・整形外科疾患の診断、治療を概説できる ・小児の神経疾患の特徴、対応を説明できる ・小児の精神神経疾患における臨床徴候や対応を述べることができる ・発達障がい、重症心身障がいおよび知的障がいなどの分類・診断ができる ・耳鼻咽喉領域における小児疾患の特徴を説明できる								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験（筆記試験）の成績で評価するが、学習態度も加味する。 尚、合格基準は 100 点満点に換算して、60 点以上をもって合格とする。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5. 4. 12（水）5	授業オリエンテーション 小児感染症の集団発生事例への対応	講義を中心に授業を行うが、できるだけプリント・配布資料などを用い、また、必要に応じて、ビデオなどの教材を活用する予定。さらに、それぞれの講師の臨床体験に根ざした事例を紹介することで、臨場感のある講義を実践する。	時間の関係で講義の中で全ての項目に触れる事は難しいので、不足の部分は参考教材（図書館の図書、ビデオなど）を積極的に活用し自主的に補充学習すること。	石川				
2	5. 4. 19（水）5	呼吸器疾患・消化器疾患と感染症			鈴木（恵）				
3	5. 4. 26（水）5	新生児疾患・染色体異常			森（福）				
4	5. 5. 10（水）5	内分泌・代謝性疾患、免疫・アレルギー疾患			森（福）				
5	5. 5. 17（水）5	循環器疾患（1）川崎病			鈴木（恵）				
6	5. 5. 24（水）5	腎臓・泌尿器疾患			森（福）				
7	5. 5. 31（水）5	循環器疾患（2）先天性心疾患と心臓検診			鈴木（恵）				

8	5. 6. 7 (水) 5	耳鼻咽喉科領域の疾患			スポット (青柳優)
9	後日連絡	神経疾患・発達障がい (1)			山大小児科
10	後日連絡	神経疾患・発達障がい (2)			山大小児科
11	後日連絡	神経疾患・発達障がい (3)			山大小児科
12	5. 7. 5 (水) 5	血液・造血器疾患、悪性新生物			スポット (前田邦彦)
13	5. 7.12 (水) 5	母乳・育児			スポット (佐藤文彦)
14	5. 7.19 (水) 5	小児の精神疾患・発達障がい			スポット (有海清彦)
15	5. 7.26 (水) 5	小児の運動器・整形外科疾患			スポット (金内ゆみ子)
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 参考図書：各講義において、紹介する			
履 修 上 の 注 意		講義の大部分が学外講師の授業で構成されているため、講義内容や時間に変更の可能性があるので、常に掲示等に充分注意して授業に臨むこと。			
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		学外講師の分担による授業のため、質問がある場合は、基本的には授業中に解決するように心がけること。			
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		石川仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp			

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動器障がい論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教授・村 成幸	必修	1	後期	2	非該当	可
授業概要		骨関節・筋・脊髄末梢神経の機能・病態治療の最新の知識を教授する							
一般目標		整形外科学の基本的知識を習得する							
到達目標		1. 主な関節疾患の病態や症状について説明できる 2. 主な脊椎疾患の病態や症状が説明でき、麻痺の程度を認識できる 3. 四肢外傷の症状や合併症を説明できる 4. 骨、関節疾患に関する基本的検査の意味を理解できる 5. 整形外科的医療が人間の QOL の維持・向上に大きく寄与していることを認識する							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		期末テスト（90％）と授業態度（10％）で評価する							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外学習 など		担当
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15	5. 9. 28 (木) 3・4 5. 10. 5 (木) 3・4 5. 10. 19 (木) 3・4 5. 10. 26 (木) 3・4 5. 11. 2 (木) 3・4 5. 11. 9 (木) 3・4 5. 11. 16 (木) 3・4 5. 11. 30 (木) 3	骨関節筋の解剖生理・修復 総論 骨代謝 関節変性炎症性疾患, 関節リウマチ類似疾患 脊髄脊椎高位診断 脊椎外傷・疾患 末梢神経 絞扼性神経障害 血行障害 上肢疾患 下肢疾患 骨軟部腫瘍 先天異常 まとめ			画像・video 等を使用 して病態を解説する				村
教 科 書		教科書：標準整形外科学（医学書院）							
履 修 上 の 注 意		解剖学の知識が必須なので、夏季休暇中に前期の生体形態学の復習をしておくこと							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		運動器障がいの理解は、リハビリテーションには必須です。しっかり勉強しましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		村 成幸：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
発達障がい論	理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	非常勤講師 二瓶 健次 平元 東 井田 英雄	必修	2	前期	2	非該当	可		
授業概要	子どもの一般的な発達について “一般的な“発達ができない子どもたちについて事例を交えて講義します。									
一般目標	小児の発達について知った上で、それが適わない子どもたちとその家族に対してどのような支援が出来るか考え、実行できるようにする。									
到達目標	・ 大まかな小児の発達を理解する ・ 具体的な疾患とその症状、合併症などについて理解する ・ 療育に関する見解を深める									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験(100%)									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など		担当				
1	後日連絡	・ 自閉性障害 ・ 学習障害、注意欠如・多動症 ・ 小児内部障害、小児癌など	*授業項目の順番 や内容は変更になる 可能性があります。 *パワーポイント、 ビデオなどを 使用した講義形式	参考書を読んで おくこと		二瓶				
2										
3										
4	5. 7. 19 (水) 5	・ 重症心身障害 ・ 知的障害 ・ NICU				平元				
5	5. 7. 20 (木) 1									
6	5. 7. 20 (木) 2									
7	後日連絡	・ 小児の成長と発達 ・ 診察・評価法、発達障害 ・ 先天異常（奇形、染色体異常など）				参考書を読んで おくこと		山大小児科 山大小児科 山大小児科		
8										
9										
10	5. 6. 6 (火) 3 5. 6. 13 (火) 3 5. 6. 20 (火) 3 5. 6. 27 (火) 3 5. 7. 4 (火) 3 5. 7. 11 (火) 3	・ 肢体不自由児施設のリハビリテーション ・ 脳性麻痺 ・ 筋ジストロフィー ・ 二分脊椎 ・ 骨系統疾患 ・ 障がい児に対する補装具 ・ 障がい児に対する手術						井田		
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考図書	参考書：標準リハビリテーション医学（医学書院）、現代リハビリテーション医学（金原出版）、小児リハビリテーションポケットマニュアル（診断と治療社） ほか									
履 修 上 の 注 意	特になし									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	障害児者のノーマライゼーション（社会の中で、健常者と共に自立して生活していく）のためには幼少時の関わりがとても大切です。療育への関心を少しでも高めてもらえればと思います。									
e-mail・研究室 (連 絡 先)	教務学生課									
連 絡 調 整 担 当 教 員	石川 仁：研究室 24 hishikawa@yachts.ac.jp 森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経障がい論		理学・作業療法学科 (専門基礎科目)	教授・菊池 昭夫	必修	2	前期	2	非該当	可
授業概要		神経系の構造・機能を詳しく講義する。神経系の各種の障がいの病態機序を講義する。 神経学的診察、診断の方法を講義する。各神経疾患の病因、症状、診断、治療について講義する。							
一般目標		神経系の構造・機能をさらに深く理解する。神経系の各種の障がいの病態機序を理解する。神経学的診察、 診断の方法を理解する。各神経疾患の病因、症状、診断、治療について理解する。							
到達目標		神経系の構造・機能、神経系の各種の障がいの病態機序、神経学的診察、診断の方法、各神経疾患の病因、 症状、診断、治療について、実演や図を用いて説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		レポート等で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1 2 3 4 5 6 7 8	5.4.13 (木) 2 5.4.20 (木) 4・5 5.4.27 (木) 4・5 5.5.11 (木) 4・5 5.5.18 (木) 4・5 5.5.25 (木) 4・5 5.6. 1 (木) 4・5 5.6. 8 (木) 4・5	神経疾患の特徴・神経系の構造と機能の復習 脳画像の見方 意識・脳神経 筋力・筋緊張・筋萎縮・不随意運動・反射 体性感覚・平衡・協調運動・構音・嚥下 血管障害・腫瘍・外傷・脊髄疾患 変性疾患・脱髄疾患・感染症 中毒栄養欠乏疾患・末梢神経疾患 筋疾患・神経筋接合部疾患			スライド、プリント、 動画、実演などを行 いながら、神経疾患 について学習する。				菊池
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：奈良勲、鎌倉矩子監 川平和美著「標準理学療法学・作業療法学・神経内科学」(医学書院)							
履 修 上 の 注 意		授業はスライドを用いて行います。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		丸暗記ではなく、考え方をよく理解して覚えてください。その方が、ずっと臨床に役立ちます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		菊池昭夫：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
社会福祉論	三学科共通 (専門基礎科目)	非常勤講師 高梨 友也 千脇 隆志	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	・医療と福祉の始まりから専門分化の過程について解説し、制度面を確認したうえで少子高齢化と人口減少社会における医療・保健・福祉およびリハビリテーションにおける多職種連携の必要性について講義する。 ・自立支援、就労支援、地域包括ケアおよび共生社会のあり方と推進方法について講義する。 ・対人援助職に必要な人間観・援助観について講義し、各自が自分なりの人間観・援助観について考察を深め、自身の今後に繋げていく講義とする。							
一般目標	社会福祉の現状を知り、現代の「普遍的社会福祉」において、社会福祉や社会保障が自分や身の周りの人々とどのように関連づいているのかを理解する。そのうえで、医療・保健・福祉の実践現場において社会福祉の制度や援助理論がどのように関わるのかを理解し、多職種連携の必要性とあり方を説明できる。							
到達目標	・社会福祉と社会保障の基本的な考え方と仕組みを説明することができる。 ・医療の現場に求められる社会福祉と社会保障の制度や知識を抽出することができる。 ・医療と福祉の連携の必要性を理解し、現在進められている連携のあり方について述べることができる。 ・社会福祉援助技術の医療現場への活用について説明することができる。 ・自立支援、就労支援、地域包括ケア、共生社会のあり方を説明し、その推進に寄与できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	方針：記述式の試験を行う。授業内レポートを数回課す。 方法：事例や資料映像、課題などを提示し、そのことについて思考を深め、自分の考えをレポートとして提出する。授業で学んだことや考えたことをミニツペーパーにて提出する。 基準：定期試験 50%、授業内レポート 20%、毎回の授業の振り返り（ミニツペーパー） 30%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5.4.10（月）5	授業ガイダンス 社会福祉の歴史	(1)学習内容 ・社会福祉、社会保障の全体に触れる。 ・福祉と医療の視点の違いを学ぶ。 ・社会保障の現状を理解し、連携が意味するものや連携の必要性について考察する。 ・多職種連携が対象者の利益になることを理解し、具体的な場面を想定し、連携に必要な要素と自分の役割について考察する。 ・自立支援の意味を深く考察することで、看護やリハビリテーションがもたらす自立(自律)について自分の考えを深める。 ・共生社会の実現に向けた就労支援や地域包括ケアのあり方を学び、その推進に必要な要素を学ぶと同時に自分の役割を考察する。 (2)学習方法 ・テキストと授業資料に基づき説明し、質疑応答や追加説明などにより、授業内容の理解を確実なものにしていく。 ・適宜事例、資料映像、課題提示などを行い、それに関する学びや自分の考えを表現することで、「説明する」演習とする。 ・社会福祉援助技術では、簡単な演習を行う。 ・医療と福祉の「連携」が生み出すものについて考察し、必要時グループ議論する。			必要に応じ て指示する。	高梨	
2	5.4.17（月）5	社会保障を概観する					高梨	
3	5.4.24（月）5	社会福祉を概観する					高梨	
4	5.5. 1（月）5	医療保障制度					高梨	
5	5.5. 8（月）5	介護保険制度（1）					千脇	
6	5.5.15（月）5	介護保険制度（2）					千脇	
7	5.5.22（月）5	障害者福祉の現状					高梨	
8	5.5.29（月）5	社会福祉援助技術（1）					千脇	
9	5.6. 5（月）5	社会福祉援助技術（2）					千脇	
10	5.6.12（月）5	児童家庭福祉の現状					千脇	
11	5.6.19（月）5	所得保障制度					高梨	
12	5.6.26（月）5	高齢者福祉制度					高梨	
13	5.7. 3（月）5	連携の必要性を理解する					高梨	
14	5.7.10（月）5	公的扶助制度					千脇	
15	5.7.24（月）5	連携のあり方を考える					高梨	
教 科 書 参 考 図 書	教 科 書：系統看護学講座専門基礎課程(医学書院) 社会保障・社会福祉～健康支援と社会保障制度③ 参考図書：随時資料・情報提供							
履 修 上 の 注 意	・医療と福祉が連携することが対象者（患者・利用者）の利益に繋がります。制度上も協働が促進されていることから、多職種連携の留意点（相互理解）を確認しながら履修しましょう。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・医療従事者が通常関わる「患者」の「生活領域」を「対象」とすることで患者という「対象者理解」は深まります。人間を「対象」とする仕事の意味も同時に考えていきましょう。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	高梨友也:t_takanashi@t-bunkyo.ac.jp							
連 絡 調 整 担 当 教 員	丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							